



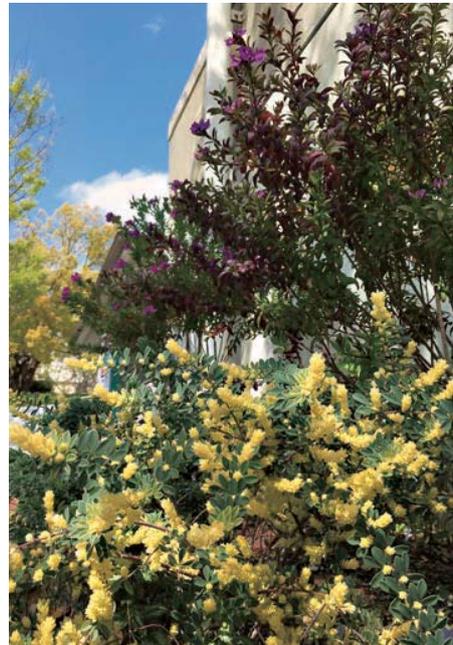
明治2年に開院した神戸病院。手前の建物番屋前の左再山(再度山)道の道標(矢印)は現在も残っている。



神緑会館入口前花壇



神緑会館(手前平屋建て)と事務棟・附属病院外来棟全景(左奥に旧第一病棟を望む)平成13年11月



有馬街道沿い神緑会館西側花壇

目次	ページ
令和元年度一般社団法人神緑会定時(社員)総会並びに学術講演会プログラム(6月29日)	3
学術講演会(プロフィールと講演要旨)	
優秀女性研究者賞受賞記念講演 杉浦 麗子	4
特別講演Ⅰ 建築デザイナー 山本ゆかり	4
特別講演Ⅱ 神戸新聞社 代表取締役会長 高士 薫	5
神戸病院の新資料について 建築デザイナー 山本ゆかり	6
卒業式と謝恩会 卒業の日によせて 狩野 綾乃	19

目次	ページ
新入生歓迎合宿報告 医学科長 匂坂 敏朗	21
新入生抱負 *橋本 峻我	22
*小柴奈々美	22
退職のご挨拶 前口腔外科教授 古森 孝英	23
京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 便り	25
小児筋電義手バンク ご寄付の案内	27
「歴史的事実の提示」の配布について	28
寄付のお願い 残り4ヶ月、ラストスパートへ	29
記念式典準備委員会の活動	30
編集後記	31

*学生

34階には神戸市街、大阪湾を一望するダイニング、
35階にはスカイラウンジ



34階レストランから望む、神戸港、三宮、
北野～新神戸界隈の街並み、六甲山（南西～北西方向）

今は自由にアクティブに暮らしたいけれど、将来の介護は不安という方へ

介護付有料老人ホーム
（一般型特定施設入居者生活介護）

入居時自立

サンシティタワー神戸

所在地：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通2-3-5



34階レストラン



夕食の一例



外観/平成29年4月撮影
土地・建物/事業主体非所有(賃借)



1階中庭

タワーでありながら緑豊かな中庭は1600㎡の癒しの空間。
リゾートホテルのような快適さで、豊かに暮らせる安心の住まい。



ロビー



温水プール

安心の医療支援体制と介護体制

将来介護が必要になっても、要介護者3人に対して
ケアスタッフ(看護師含む)2人以上という手厚い
介護人員体制



岩永メディカルクリニック
※同一建物内診療所(別法人)



斜向かいに神戸赤十字病院
※近隣の医療機関

予約不要のレストラン、大浴場、温水プール、フィットネスルームなど共用部が充実。

要予約

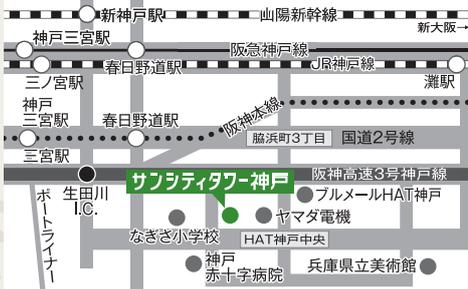
個別見学会開催

無料シャトルバス
三宮・元町へ
毎日8便運行

資料請求・見学のお申込みはこちらまで

受付時間/午前9:00～午後5:00(土日祝日も受付可)

☎0120-33-1655



【施設概要】●所在地/神戸市中央区脇浜海岸通2丁目3番5号●敷地面積/12,431㎡●建築面積/5,861㎡●延床面積/57,391.40㎡●構造規模/RC造(一部S造)、地上35階●一般居室数/483室(37,30㎡～112.76㎡)、介護居室数/95室(一時介護室4室4床含む)(20.8㎡～25.61㎡)●主な共用設備/レストラン、温水プール、男女大浴場、美容室その他●土地・建物の権利形態/事業主体非所有●建物竣工/2017年4月●開設年月/2017年6月●事業主体・運営管理/株式会社ハーフ・センチュリー・モア●返還金制度/あり【協力医療機関】●住友病院(大阪市北区中之島5-3-20、施設から約33km)●主な診療科目/一般内科、リハビリテーション科、心臓血管外科、神経内科、放射線科ほか●協力内容/生活習慣病予防健診に利用できます●兵庫医科大学病院(兵庫県西宮市武庫川1-1、施設から約18.5km)●主な診療科目/総合内科、外科、眼科、整形外科、脳神経外科ほか●協力内容/高度医療を必要とする場合の入院、外来、緊急時の対応、人間ドックに利用できます【協力医療機関】●神戸労災病院(兵庫県神戸市中央区箱池通4-1-23、施設から約1.4km)●主な診療科目/総合内科、呼吸器内科、糖尿病、内分泌内科、神経内科、精神科、心療内科、循環器内科、外科、整形外科、心臓血管外科、リハビリテーション科●協力内容/高度医療を必要とする場合の入院、外来、緊急時の対応、生活習慣病予防健診に利用できます。【同一建物内クリニック】●岩永メディカルクリニック(別法人)●主な診療科目/内科、外科、消化器内科、糖尿病内科、リハビリテーション科【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示事項】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/全額前払い方式●入居時の要件/入居時自立、満70歳以上の方●介護保険/神戸市(兵庫県)指定介護保険特定施設、神戸市(兵庫県)指定介護予防特定施設●介護居室区分/全個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上●入居申込書の記載事項に虚偽があったり、月額利用料の支払いを正当な理由なくしぼり遅滞した場合、他のご入居者や従業員に危害を及ぼす等の行為がある場合、その他入居契約書に定めた条項に違反された場合は、相当の催告期間の後に契約を解除させていただきます。●お客様の個人情報は、資料の発送や見学会のご案内のほか、各種の統計調査に利用する場合があります。

(株)ハーフ・センチュリー・モアは大手企業約100社が出資する資本金120億円で、借入金のない会社です。

【主な出資企業】三井住友銀行・みずほ銀行・三菱UFJ銀行・西日本旅客鉄道・三洋電機(パナソニック)・塩野義製薬・ダイキン工業・ヤンマー・江崎グリコ ほか

もう半世紀すこやかに
株式会社 ハーフ・センチュリー・モア

〒107-6030 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 30 階
☎0120-77-5088 TEL. 03-3505-6688 FAX. 03-3505-6198

www.hcm-suncity.jp

令和元年度 一般社団法人 神緑会 定時(社員)総会並びに学術講演会プログラム

令和元年6月29日(土) 於・外来診療棟6階 大講義室

☆ 定時(社員)総会 (15:00~16:10)

- 議長による開会宣言(会長挨拶)
- 議事録記名人の選出

1 審議事項

- 1) 一般社団法人役員選任(選挙)
役員選挙のため、時間を変更することがあります
議決のため選任が終了するまで議場を閉鎖します
- 2) 平成30年度 事業報告について
- 3) 平成30年度 決算報告について
- 4) 平成30年度 監事監査報告について
- 5) その他

2 委員会報告等

- 1) 学術委員会報告
- 2) 学術誌編集広報委員会報告
- 3) 情報委員会報告
- 4) 名簿編集委員会報告

☆ 令和元年度 田中千賀子学術奨励賞並びに研究助成金授与式 (15:55~16:10)

《休憩15分》 この間に新役員による協議で新三役を決定

☆ 新会長挨拶 (16:25~16:30)

☆ 学術講演会 (16:30~18:30)

優秀女性研究者賞受賞記念講演 (16:30~17:00)

『ゲノム薬理学的手法を用いた MAPK シグナル伝達経路制御機構の解明と創薬への
応用～ A novel cancer therapy to stimulate oncogenic ERK signaling ～』

近畿大学 薬学部 教授 杉浦麗子(平成4年卒)

特別講演 I (17:00~17:30)

『明治・大正・昭和の神戸病院建物と神緑会四大寄付事業』

建築デザイナー 山本 ゆかり、神緑会会長 前田 盛(昭和46年卒)

なお、この時間は、役員選挙などの時間配分が読めないのでクッションとして運用します。

特別講演 II (17:30~18:30)

『兵庫の150年と神戸大 そして神戸新聞』

神戸新聞社 代表取締役会長 高士 薫

☆ 情報交換会(於:神緑会館多目的ホール) (18:40~20:00)

プロフィールと講演要旨

■優秀女性研究者賞受賞記念講演



杉浦麗子 (すぎうら れいこ)

略歴 1992年 神戸大学医学部医学科卒業 神戸大学医学部精神科入局
神戸大学附属病院、済生会中津病院で研修
1994年 神戸大学医学部大学院入学 (薬理学教室)
1997年 神戸大学医学部薬理学教室助手に就任
1999年 神戸大学医学部薬理学教室講師に就任
2000年 神戸大学医学部薬理学教室助教授に就任
2001年 神戸大学大学院医学系研究科ゲノム科学講座助教授に就任
英国王立がん研究所 文部科学省在外研究員
2004年 近畿大学薬学部分子医療・ゲノム創薬学研究室教授に就任
2012年 近畿大学薬学部創薬科学科長に就任—現在に至る

受賞歴 1998, 1999, 2003 The Kobe Medical Award for Excellence in Research
2000 The Japanese Pharmacological Society Young Investigator Award
2018 「優秀女性研究者賞」

演題「ゲノム薬理学的手法を用いた MAPK シグナル伝達経路制御機構の解明と創薬への応用 ～ A novel cancer therapy to stimulate oncogenic ERK signaling ～

講演要旨: ERK MAPK 経路は、進化的に高度に保存された細胞内シグナル伝達経路であり、細胞増殖の鍵を握る。一方、ERK MAPK シグナルは多くのがんで活性化されていることから、がん治療の魅力的な標的でもある。私は、遺伝学と薬理学を融合した独創的な手法により、MAPK シグナル伝達経路の制御因子・標的因子を網羅的に同定するとともに、新規 ERK MAPK 経路調節薬の単離と抗腫瘍活性の発見に取り組むことにより、増殖・がん化の分子機構に迫る成果を得た (Sugiura et al., EMBO J. 1998, Nature 1999, 2003, J. Cell Sci. 2016; Scientific Reports 2016, 2017, Genes to Cells 2018)。特に私が発見した新規抗腫瘍剤“ACA-28”は、Ras 変異や Raf 変異、HER2や EGFR 過剰発現など、様々な原因により ERK が活性化した多癌種において、ERK MAPK 経路をさらに亢進させることにより、がん細胞特異的に細胞死を誘導する極めてユニークな活性を示す。この成果は、従来のか ERK 阻害 = 抗がん剤開発」という創薬概念を覆すと同時に、「ERK 依存的細胞死」という新たな学術的課題とがん治療戦略を提唱する。

■特別講演 I

建築デザイナー 山本 ゆかり (やまもと ゆかり)

プロフィール 山本 ゆかり

略歴 2002年 京都大学人間・環境学研究科環境相関専攻修士課程入学
財団法人住宅研究財団助成金により神戸住吉村の郊外住宅地形成の研究
2004年 京都大学人間・環境学研究科環境相関専攻修士課程修了
修士号取得 (人間・環境学)
京都大学工学研究科建築学専攻博士課程入学
阪神間の近代郊外住宅地開発に関する研究
2008年 京都大学工学研究科建築学専攻博士課程修了 博士号取得 (工学)
2008～2009年
京都大学工学研究科建築学専攻研究員
2010年 フリーランス (インテリアデザイン等) 現在に至る

講演内容 「明治・大正・昭和の神戸病院建物と神緑会四大寄付事業」

I. 明治・大正・昭和の神戸病院

明治2年に神戸病院が建設されたことは、「神戸開港30周年」に詳細が記され、その資金集めのための購金録は兵庫県公館に残されていた。ただ、京都大図書館に保管されていた4枚の写真が神戸病院のもので下山手八丁目の場所が特定されたのは、昭和59年であった。明治33年に現在地の半分の地に移転し、大正12年に現在の広さになった。昭和5年病院本館が建設され、前京都府立大学学長小川瑳五郎病院長、後に兵庫県立医専校長でこの時の詳細な図面が残っている。今回、山本ゆかり京都大学工学部卒、工学博士の尽力により、明治・大正時代の病院図面が明らかになった。その尽力に感謝、紹介する。(詳細は本号6頁～18頁)

II. 神緑会四大事業

1. 社団法人神緑会の認可 (40周年記念事業)

昭和55年～58年に法人認可に必要な基本財産一億円確保のために寄付活動を行いました。昭和59年2月に文省から認可されました (555名が終身会費免除者となった)。

2. 同窓会館 (神緑会館) 建設 (50周年記念事業)

平成6年に提起されましたが、阪神・淡路大震災により完成は平成13年となりました。建設費は2億8千万円で廣巖寺 (楠寺) にあった神田知二郎石碑を会館内に移設した。大学及び神緑会で後援会を組織し、神戸市税務署より免税措置を受けた。948名 (H8年7月24日)、但し、平成13年後援会まとめで1856名。

3. 動物舎の移転と基礎棟全面耐震改修 (60周年記念事業)

独立行政法人への移行などで2年遅れとなったが、共同研究館横に寄付建物を建設し、共同研究館の耐震改修と北棟7～9階にあった動物舎を両建物に移転した。次いで、基礎棟を順に耐震改修した。2期に分けた寄付で、1.2億円及び6千万円確保し、独法化の効果で寄付は総て大学基金経由で免税となった。

4. 75・150周年記念事業 (75周年記念事業)

現在進行中の寄付活動は、神緑会としての目標額は2億円で総額が5億円です。

10月を目処に継続され、ようやく大学も本腰を入れた活動中です。75周年記念誌発行準備中で、神緑会は別に全学年を巻き込んだ座談会記録を5月末に送付します。

■特別講演 II



高 士 薫 (たかし かおる)

神戸新聞社代表取締役会長／神戸新聞厚生事業団理事長

学歴 1975年3月 神戸大学法学部卒業

略歴 1975年4月 神戸新聞社入社

2000年3月 編集局社会部副部長

2003年2月 編集局社会部長

2005年3月 編集局次長兼社会部長

2006年2月 編集局長

2008年2月 神戸新聞社取締役 (編集・論説担当、編集局長)

2009年2月 同 取締役 (広告担当)

2010年2月 代表取締役社長 グループ経営会議議長

2018年2月 神戸新聞厚生事業団理事長を兼務

2019年2月 現職

公職 一般社団法人 共同通信社 理事会副会長

演題「兵庫の150年と神戸大 そして神戸新聞」

講演要旨：神大医学部は慶応の昔、神戸開港とともにその種がまかれました。前身の神戸病院が開院して、今年、150年の佳節をお迎えになられることに、まずお慶びを申し上げます。しかしその長い歴史にもかかわらず、けっして文部行政から優遇されることはなかった、と申し上げていいでしょう。兵庫・神戸の成り立ちと個性、写し鏡のようにそれが反映した神戸大学の歩み、そして地元紙・神戸新聞グループの今。神戸大学を出て兵庫・神戸取材し続け、日本の新聞界をほぼ俯瞰できるようになった立場から、兵庫の150年と神戸大学、そして地元メディアを語ってみたいと思います。ご期待にはとても沿えないと思いますが。

神戸病院の新資料について

修士（人間・環境学）（京都大学）、博士（工学）（京都大学） 山本 ゆかり

はじめに

私は、学生時代に近代建築史（明治期における阪神間の住宅地形成）を専門にしていました。2018年に調べ物をしていたところ、明治33年（1900）に神戸坂本村に神戸病院が建てられたとの記述を発見しました。阪神間の住宅地開発は我が国最初のもので明治33年から動き出しますので¹⁾、明治33年に神戸という点に興味を持ち、神戸病院について調べました。そして、最初の神戸病院は明治2年（1869）という早い時期に下山手通8丁目に洋風建築として建てられており、京都大学が保管する写真が近盛晴嘉氏によって神戸病院だと特定され、その姿が明らかになりました。神戸病院に関する既往研究は、藤田英夫氏による考察²⁾、住野公昭先生、寺島俊雄先生らによる神緑会のニューズレター及び学術誌での研究³⁾があるのみで、不明な点が多いことわかりました。また、近代建築の病院に関する既往研究⁴⁾からは、神戸病院は現時点で確認されている「洋風建築で建てられた我が国で最初の医学校兼病院」であることがわかりました。

明治2年という時期は、我が国における洋風建築の黎明期です。神戸は居留地の区画が完成したばかりで洋風建築が建て揃っていない非常に早い時期です。

なぜ、建築学において神戸病院の研究がなかったのかは不明ですが、いわゆる阪神間モダニズムの中核である郊外住宅地開発は、大阪医学校校長であった佐多愛彦をはじめとする医学者たちによって「健康」をキーワードに明治末期から発展していきました⁵⁾。阪神間の発展とその歴史は医学者と密接な関係にあります。そういった観点からも神戸病院の歴史は、阪神間モダニズムの前史としても重要な位置にあるのではないのでしょうか。

このような経緯で神戸病院の資料を調査してみたところ幸運にも新資料の発見に繋がりました。住野公昭先生に習い、第1期神戸病院（明治2年から明治33年）第2期神戸病院（明治33年から昭和5年）にわけて重要と考えられる新資料の一部をご紹介します。

1. 第1期神戸病院（明治2年から明治33年）下山手通8丁目

第1期神戸病院の不明点は数多い。初代病院長のアメリカ人医師 A.M. ヴェッダーの後任とされるアメリカ人ハルリスについては特に不明点が多い。また、第1期神戸病院の建築、配置等についても同様である。ここでは、主な初見の資料を（1）第1期神戸病院に関わる外国人医師（2）第1期神戸病院の建物および配置にわけて紹介する。

（1）第1期神戸病院に関わる外国人医師

初代病院長アメリカ人医師 A.M. ヴェッダー（Alexander Madion Vedder）

ヴェッダーについて発見した資料は、公文書と診断書、新聞広告である。最も古いものは、慶応4年（1868）1月の公文録「藩雇米医ベタル御用二付兵庫表へ可差越御達⁶⁾」で、次は慶応4年8月17日の太政類典「長州藩雇米医ベタルヲ兵庫ニ召ス⁷⁾」である。前者は「兵庫県史」と同内容であるが、後者はより詳しい内容となっており兵庫県史と日付が一致している⁸⁾。これより、ベタルとはヴェッダーのことであることがわかる。

図3は「駒吉虚病診断書」図4はその英文、図2は英文で書かれた「診断書」である⁹⁾。図3では「於兵庫千八百六拾九年第五月二十四日」「醫師エーエムベツドル」の文字が確認でき、図4では、“Hiogo May 24 th 69” “Alex M.Vedder MD.” と確認できる。図2の「診断書」からは“Hiogo May 26 th 1869”の文字が確認できる。神戸開港文書の訳文では署名部分は「S.U.Vedder U.Q」となっているが、神戸大学附属図書館

から高解像度データを提供してもらいそれを拡大してみると“A M.Vedder MD.”とも読めることがわかった。これらの資料は、神戸開港文書の「その他」に分類されていることから見逃されていたと考えられる。

図1は、1869年6月12日の「HIOGO&OSAKA HERALD」¹⁰⁾に掲載された神戸病院の広告である。これは外国人向けに出された新聞なので、当時、我が国で使用されていた旧暦でみると明治2年5月3日となる。これをみると、居住している外国人に対して神戸病院を案内するもので、病室が三種類あり、その費用案内がある。日本人使用人のことも書いてあるが、「Japanese Servants of Foreigners..Boo ■ 3 (■は判読不可)」とあり、何を意味するのかはわからない。最後にある「By order of the Governor of Hiogo, AKEX. M.VEDDER, Medical Director.」からは兵庫県知事からの依頼でベッダーが広告を出したことがわかる。初代兵庫県知事の伊藤博文は明治2年4月10日（西暦1869年5月21日）に退任した。広告が出された時期の知事は二代目の久我通城であるが、久我は明治2年5月19日（西暦1869年6月28日）に未赴任のまま1ヶ月あまりで退任している¹¹⁾。現時点では、伊藤が退任する4月10日より前に4月20日に開院する神戸病院の広告を出すようベッダーに依頼していたと考えるのが自然であろう。

図1 1869年6月12日付「HIOGO&OSAKA HERALD」に掲載された神戸病院の広告
西暦1869年6月12日、旧暦では明治2年5月3日。(書き起こし：山本)

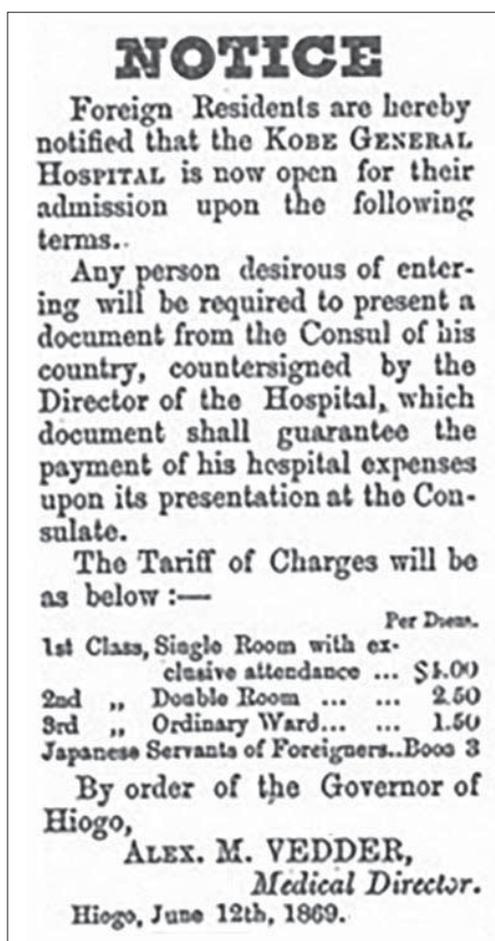


図2 診断書（英文）（神戸大学附属図書館蔵 開港文書より）（線で示した日付と署名部分を拡大、抽出し書き起こしをしている）
神戸開港文書の「診断書（訳文）」では「S.U.Vedder U.Q」となっているが、この図での書き起こしは「A M.Vedder MD.」とした。

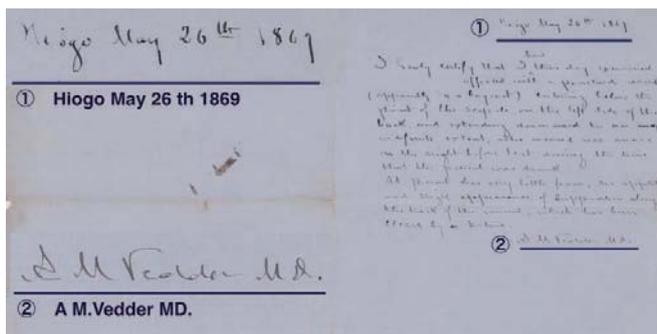




図3 駒吉虚病診断書（神戸大学附属図書館蔵 神戸開港文書より）（線で示した日付と署名部分を拡大、抽出し書き起こしをしている）

アジア歴史資料センターの書き起こしでは二十一日となっているが、英文の日付と二十四日と読めることから、この図での書き起こしは二十四日としている。

於兵庫千八百六十九年第五月二十一日
一拙者三日程前二日本人駒吉之病処を遂而致吟味候処右病人申間候二者肩及腕に痛み有之旨二候得共肩腕共壮健なる容体二有之候間決し而苦痛相発すへき筈者無之右者全ク虚病之様二被思申候拜具 医師エーエムベツドル（書き起こし文：アジア歴史資料データベース / アジア歴史資料センターより）

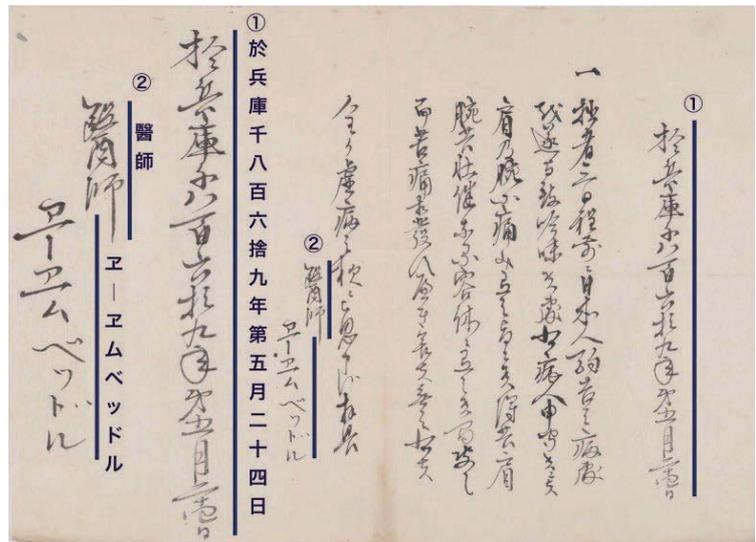
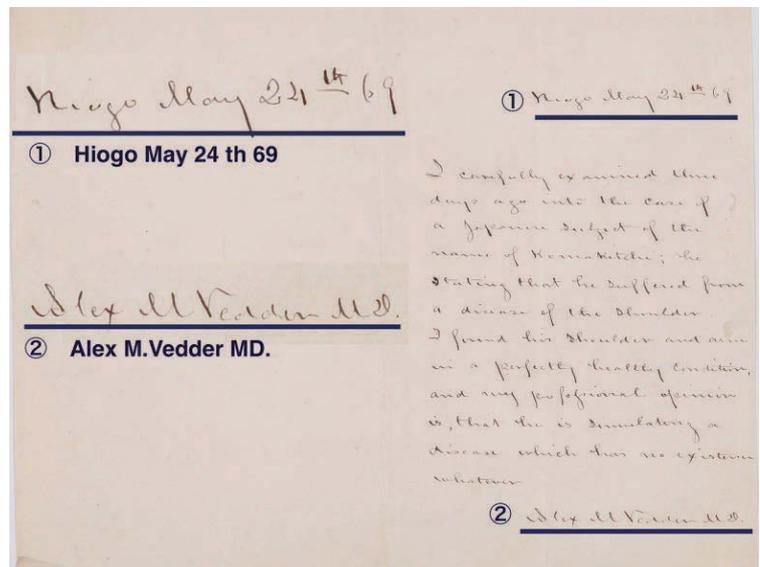


図4 駒吉虚病診断書（英文）（神戸大学附属図書館蔵 神戸開港文書より）（線で示した日付と署名部分を拡大、抽出し書き起こしをしている）



神戸開港文書「診断書訳文」1867年5月26日 兵庫 本日〇〇〇〇（〇〇〇〇の部分は本来記入されるべき患者名が空白になっている）を検査いたしました。彼は背中左側の肩甲骨のあたりから下方に向かって、程度は定かではありませんが、刺傷（明らかに銃剣によるもの）を負っています。その傷は一昨日の夜に、患者が泥酔していた時に負わされたものであります。目下熱はほとんどなし食欲なく傷跡がわずかに化膿しているような徴候が見られます。傷は縫合用の糸でとじておきました。以上のことを証明いたします。S.U.Vedder U.Q（神戸大学附属図書館蔵 神戸開港文書より）

アメリカ人医師ハルリス

ベッダーの後任アメリカ人医師ハルリスと考えられる人物が記されているのは、神戸開港文書にある明治初期のものであろう〔List of American Residents at Kobe〕に James.Harris (ゼームス・ハリス) とある¹²⁾。明治4年(1871)の神戸開港文書「柴屋権左衛門米国人ステーブル地所取継一件」の書簡には合衆国代弁副領事ゼームス・ハリスとある¹³⁾。明治5年(1872)の外務省記録には「ゼームスハルリス氏神戸大阪在留布哇国領事二任命ノ件 明治五年九月」がある¹⁴⁾。いずれも医師との記載はない。

つぎに「資料御雇外国人」にあるアメリカ人 James.Harris (ゼームス・ハリス) である。住所は神戸、職業は医師とある。雇主雇期間は工部省鉄道寮で明治5年1月22日から3年となっており、明治8年(1875)3月1日に満期となり明治9年(1876)7月1日より無期限となっている。この資料で住所が神戸と確認できるのは明治9年7月1日からである¹⁵⁾。明治8年3月1日の公文録には「鉄道寮雇米人セームスハリス満期雇止届」がある¹⁶⁾。明治5年の「THE HIOGO DIRECTORY」には“Harris,J.,D.M.,Medical Officer,Jap.Imp.rail.”とあり、明治6年から10年までの「KOBE-HIOGO.」 IMPERIAL RAILWAY. のスタッフ欄に Harris,J.,M.D. とある。さらに明治12年(1879)の「THE HIOGO DIRECTORY」には International Hospital of Hiogo (万国病院/現・海星病院) に“Harris,M.D.acting.”とある¹⁷⁾。神戸病院在籍時期とは一致しないが、このハルリスは明治5年から神戸に居住していたアメリカ人医師である。

明治5年に発行された「御雇外国人一覧」に明治4年からの雇方で鉄道寮の医官としてハルリスの名はある。ここにあるアメリカ人は総人数214名中16名と大変少なく¹⁸⁾、医学に関連する職業と人数は、医師3名、東校医術3名、医術兼書記1名、医官長1名、医官2名の10名である。

アメリカ人医師 J.C. ベリー (John.C.Berry)

明治6年(1873)から明治10年(1877)まで神戸病院にいたアメリカ人宣教師でもあるベリーについては、兵庫県史料と同内容¹⁹⁾ではあるが、外務省記録にある明治5年(1872)の「神戸在留亜米利加国医師「ベリー」ヨリ牢死者死体解剖方出願一件」がみつかった²⁰⁾。

明治8年(1875)の「THE HIOGO DIRECTORY」では NATIVE HOSPITAL の項目が設けられ“Berry,J.C.,M.D.,Medical Director.”とあり、NATIVE HOSPITAL とベリーの名は、明治8年から明治10年(1877)まで確認できた²¹⁾。そして「資料御雇外国人」には、明治12年(1879)から明治22年(1889)の岡山での雇用記録でアメリカ人 John.C.Berry (ジョン・シー・ベリー) 医学顧問・医師とあり、医師としての給料は無給、医学顧問としての給料は200円とある²²⁾。

アメリカ人宣教師としてしてみると「Annual Report-United Church Board for World Ministries」に、明治8年(1875)のベリーが、神戸病院でテイラー、アダムスという名の医師らと医療活動と布教活動をしてきたこと、三田、有馬、加古川、姫路、神戸病院の Native Doctor 2名と尼崎に訪れたこと等の記載をみつけることができた²³⁾。さらに、明治6年の「KOBE-HIOGO.」の AMERICAN MISSION. の欄で“Berry,J.D.” 明治7年には“Berry,Rev.J.,C.,M.D.” 明治8年には“Berry,J.C.,M.D.”と“Taylor,Rev.Wallace,M.D.”とテイラーが登場する²⁴⁾。テイラーは「資料御雇外国人」によると職種は京都府民に対しては人身窮理諸学教師で、神戸では医学質問、同志社英学校では教師となっている。神戸での活動は、明治10年からの記録で、雇い主は兵庫川崎東出町の人物他4名、住所は京都府石薬師御門通西町六七〇番地、毎土曜日午前九時より午後一時迄出張日給7円50銭とある²⁵⁾。これまで出てきた M.D. は“Medical Director”の意味のようである。

オランダ人医師 ヘイデン (Heyden)

公立神戸病院となった明治10年(1877)に招聘されたオランダ人医師ヘイデンについては、明治13年(1880)の「THE HIOGO DIRECTORY」に“Kobe Koritsu Hospital”の項目が設けられ、“Van der Heyden,Dr.”と記載されていることがわかった。Kobe Koritsu Hospital とヘイデンの名は、明治13年から明治15年(1882)までで、翌16年(1883)からは“Dr.Shirai Kosoku”(白井剛策)となる²⁶⁾。



(2) 第1期神戸病院の建物と配置

第1期神戸病院については、京都大学が保管する明治5年（1872）頃の4枚の写真、明治6～7年頃の究理文庫所蔵の遠景写真、それらとは外観の違う明治期の写真、明治13年（1880）に神戸病院附属となった梅毒病院の写真の計7枚がこれまで紹介されている。他に「写真集 神戸100年」に明治初期の神戸病院遠景写真があり、この写真からは当時の周辺状況（明治7年の鉄道開通前であること等）がわかる²⁷⁾。これらの写真は、近盛晴嘉氏によって神戸病院と特定された。そして、京都大学が保管する写真については藤田氏の研究に詳しい²⁾。

今回、長崎大学付属図書館が公開している「幕末・明治期日本古写真超高精細画像」にある3枚の写真から明治期の神戸病院の姿が確認できることがわかった。

1510 神戸港の遠望（写真をクリックすると超高精細画像になりズーム可能）

<http://sepia.lb.nagasaki-u.ac.jp/zoom/jp/record.php?id=1510>

写真の左端中央あたりに善福寺（現・モダン寺）。これより手前にある見えるオレンジ色に着色されている屋根の洋風の建物は建て替え後の神戸病院だと考えられる。

2822 神戸市街の遠景（2）（写真をクリックすると超高精細画像になりズーム可能）

<http://sepia.lb.nagasaki-u.ac.jp/zoom/jp/record.php?id=2822>

写真右側（西側）、神戸駅方面を拡大すると善福寺（現・モダン寺）が確認でき、その右側（西側）にある白い建物が明治初期の神戸病院だと確認できる。

4602 神戸駅付近の線路（3）（写真をクリックすると超高精細画像になりズーム可能）

<http://sepia.lb.nagasaki-u.ac.jp/zoom/jp/record.php?id=4602>

解説にもあるように神戸駅東にあった相生橋付近からの風景の中に神戸病院が確認できる。

第1期神戸病院は、公立神戸病院、県立神戸病院と改称し、医学伝習所、解剖所、伝染病院、梅毒病院、薬学校等の開設や廃止、独立があった。増改築もあったようだが詳細はわかっていない。ここでは、神戸病院が確認できる建物に関する主な新資料を古地図を中心に紹介する。

図5 明治3年（1870）宇治野村総体絵図（部分）

（神戸市立博物館蔵）「古地図で見る神戸²⁸⁾」

より

神戸病院を確認できる一番古い地図は明治元年（1868）「兵庫県御免許開港神戸之図」である。これは病院という文字が確認できる。明治5年（1872）の「摂州神戸山手取開圖」は大病院の文字とともに二階建の建物が描かれている。この2点については神緑会のニューズレターでも紹介されている。今回「宇治野村総体絵図」に大病院の文字とともに二階建の建物が描かれていることがわかった。

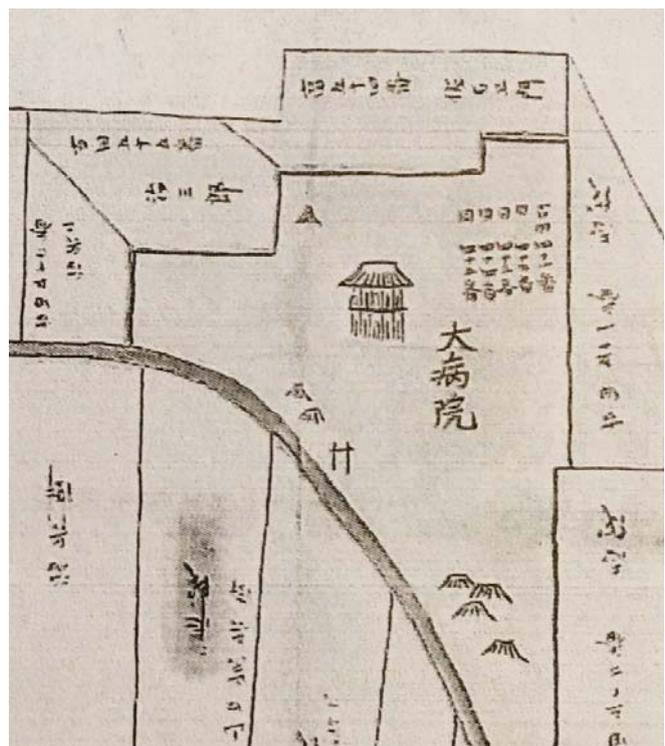


図6 明治9年測図明治14年発行 兵庫神戸實測圖（部分）（神戸市立図書館蔵「日本近代都市変遷地図集²⁹⁾」より）（作図：山本）

これは、以前に神緑会ニュースレターで紹介されたものである。この明治初期の神戸病院の建物配置を確認できる地図を、位置関係を把握しやすいよう現在と同じ場所にある湊川神社と神戸地方裁判所を含み切り取り、神戸病院の建物を水色でトレースしたものである。

この地図の原本は、文化遺産オンラインおよびGoogle Arts & Culture から確認できる。

文化遺産オンライン

<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/240171/1>

Google Arts & Culture

https://artsandculture.google.com/asset/%E5%85%B5%E5%BA%AB%E7%A5%9E%E6%88%B8%E5%AE%9F%E6%B8%AC%E5%9B%B3/4gHGtAQP0B_NQ?hl=ja

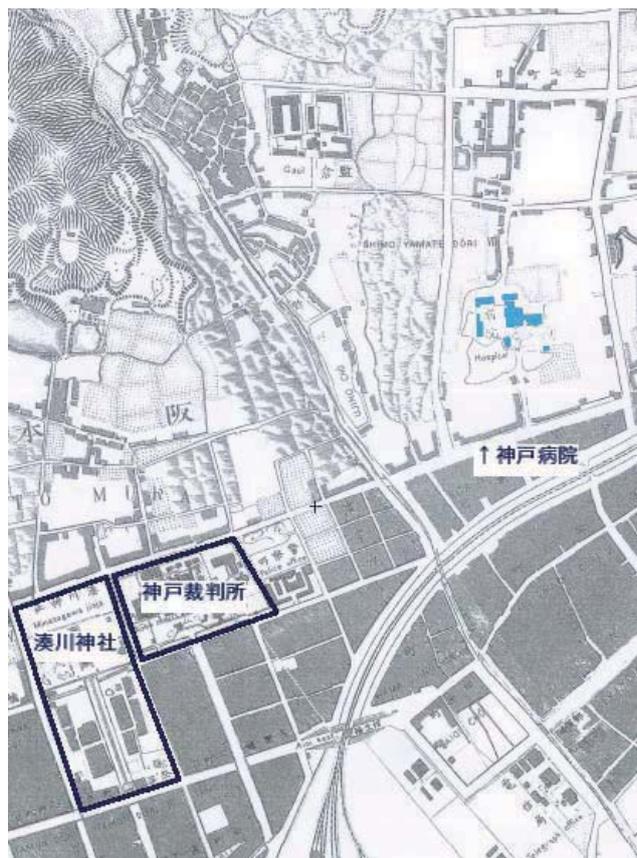


図7 明治19年測図「明治前期・昭和前期神戸都市地図（湊川1/10000）」³⁰⁾（部分）（神戸市立図書館蔵）（作図：山本）

この図は建物配置の変遷が確認できるように明治19年測図の地図にある神戸病院の建物を水色でトレースしたものである。確認できる限り、明治元年から明治19年までのこの地域の水害は12回あり³¹⁾、図6と図7の病院建物の場所は、ほぼ同じ位置にあるが、形状が異なっていることから、増築と修復が行われていたと考えられる。

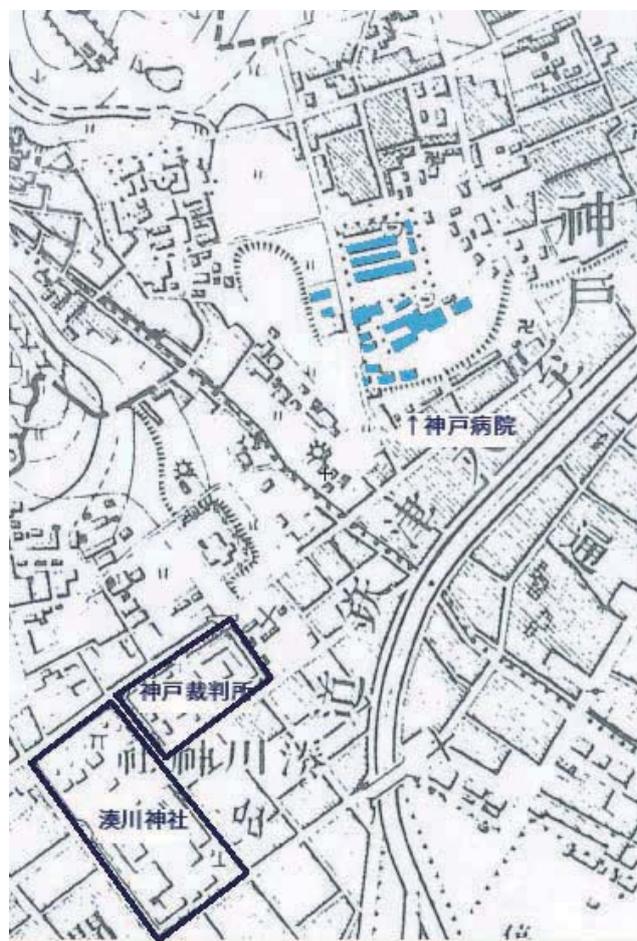




図8 明治19年(1886)神戸兵庫名勝繪圖(部分)(神戸市立図書館蔵「日本近代都市変遷地図集²⁹⁾」より)

明治9年(1876)に発足した神戸病院附属医学校(○印)は、明治12年(1879)から明治20年(1887)に明治天皇御用邸として買上げられるまで川崎町にあった。「神戸兵庫名勝繪圖」は醫学校の文字を地図で確認できる唯一のものである。現在のumie 立体駐車場南東角、明治天皇御用邸趾石碑のあたりである。この地図は、神戸市立図書館貴重資料デジタルアーカイブスでも確認できる。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/institution/institution/library/arc/viewers/100.html?list=2>

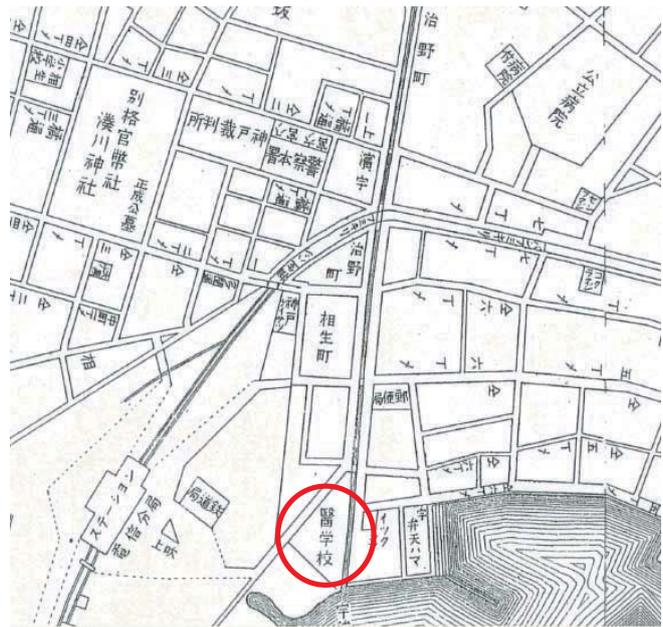


図9 梅毒院事務所及検査場平面図1/200(公文録「兵庫県梅毒院建築費貸下ノ件³²⁾」より)

明治12年(1879)10月の公文録「兵庫県梅毒院建築費貸下ノ件」には神戸病院附属梅毒病院の平面図、立面図等があることがわかった。事務所、検査場、医局、薬局、病室、浴室、食堂及焚出場等があり、別棟に便所、薪置場がある。

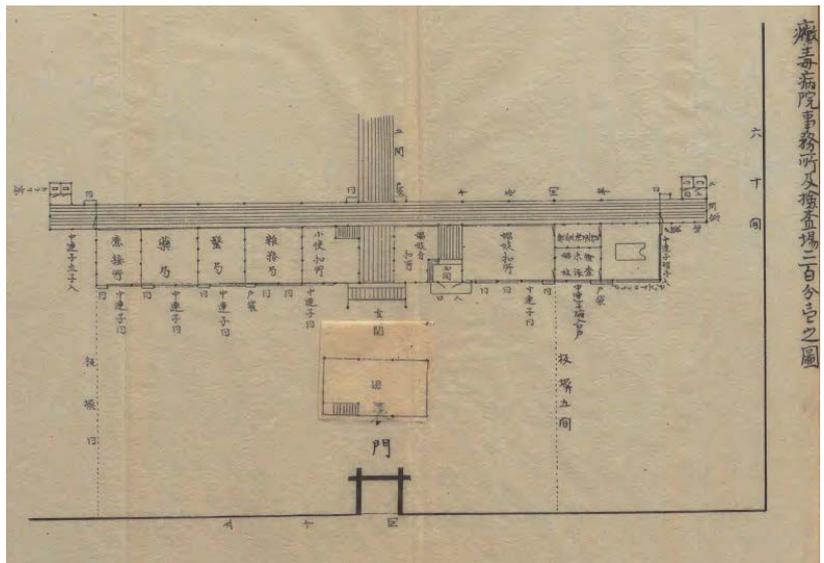
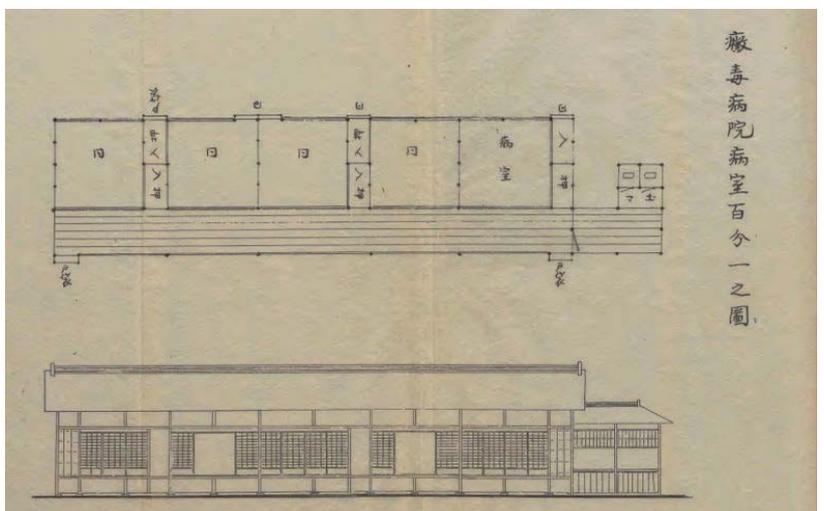


図10 梅毒院病室平面図と立面図1/100(公文録「兵庫県梅毒院建築費貸下ノ件」より)

この平面図の形状から図7にある東西に伸びる長形状の建物は梅毒病院であることがわかり、図8の病院と道路を挟んで西隣にある病院付とある部分は伝染病院だとわかる。



2. 第2期神戸病院（明治33年から昭和5年）楠町7丁目

楠町へ移転した第2期神戸病院に関しては資料が大変少ない。以前、神緑会ニューズレターで紹介された神戸又新日報や読売新聞の記事から、工費、竣工年月、建坪、室名や坪数などはわかっている。ここでは、主な初見の資料を第2期神戸病院の土地、配置を中心に紹介する。

図11 明治33年（1900）神戸市図：附名勝舊跡³³⁾（部分）（神戸市立図書館蔵）

現在、神戸大学医学部附属病院と神戸大学医学部が建つ楠町7丁目は、大阪砲兵隊兵庫分営の跡地で県が陸軍省に提供しており、明治21年に県に返還³⁴⁾されてからは第二回水産博覧会や共進会（関西府県連合共進会）が行われていた。これは明治30年（1897）4月11日より5月30日に行われた共進会が描かれたものである。比較的大きな建物が描かれていることがわかる。

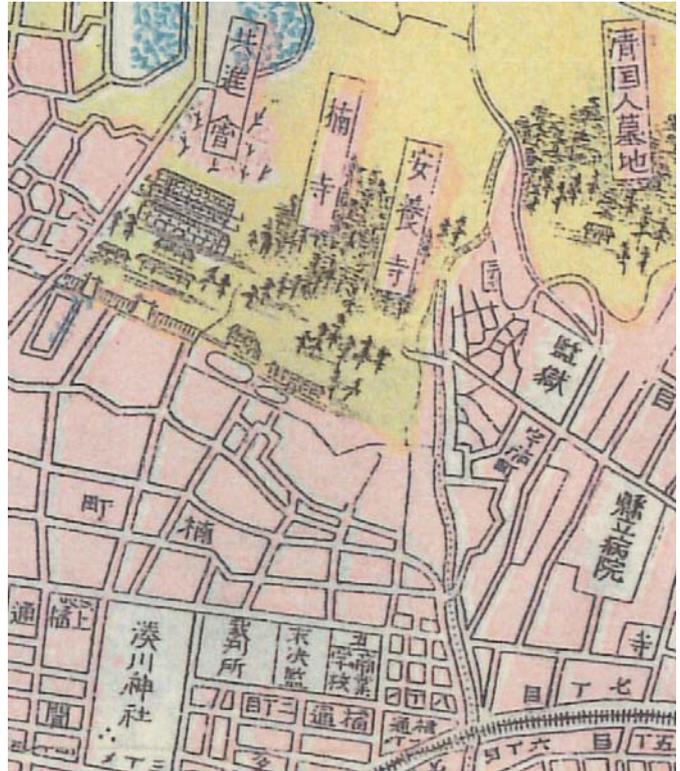


図12 神戸市新圖：附姫路市新圖³⁵⁾（部分）（神戸市立図書館蔵）（作図：山本）

この図は、明治36年（1903）「神戸市新圖：附姫路市新圖」に旧土地台帳記録に対応する場所を示したものである。図13は図12の1、図14は図12の2、図15は図12の3である。現在の神戸大学医学部附属病院が位置するのは図12の1、2で、3は大倉山公園となる。

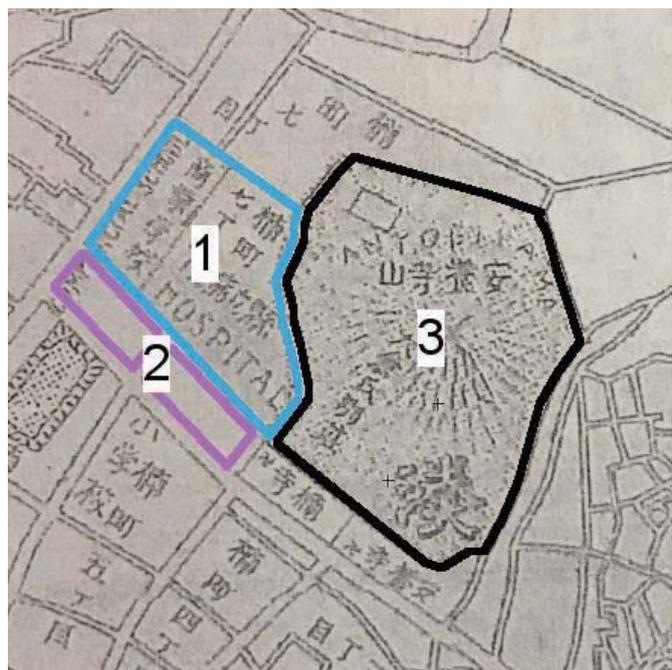


図13 楠町7丁目旧土地台帳 地番13³⁶⁾ (部分)
(図12の1) (線で示した部分を抽出し拡大)

図13から図15は、楠町7丁目の旧土地台帳である。この地は明治29年(1896)10月に神戸商業学校の設置を条件の1つとして所有者から県に寄付された。移転当初は、現在の神戸大学医学部附属病院の東側半分で西側半分は神戸商業学校であった。旧土地台帳は明治20年頃から作成されており、この時点での土地の所有者(税金を納める人物)が最初に記されている。明治20年頃の楠町7丁目の土地の所有者は、すべて渋澤榮一である。図13の沿革には明治24年7月25日に民有地、明治29年10月3日に官有地になったことが記され、のちに兵庫県に所有権は移転している。

楠町7丁目旧土地台帳 地番13 (沿革部分書き起こし:山本)

明治廿四年七月廿五日民有地 成賦祖所分済
反別九反九畝十四歩 地価一円三十六銭
地租三銭四厘 明治二十八年八月元日訓令
台裂二付四迄の枝番ヲ付シ次葉二掲記ス 反
別四畝壹歩地価四銭地租壹厘増 明治廿九年
十月廿三日訓令二二六五号官有地成
昭和十一年法律第三十六号二依リ賃貸価格ヲ
改訂シ次欄ニ改記ス

図14 楠町7丁目旧土地台帳 地番11³⁷⁾ (部分)
(図12の2) (線で示した部分を抽出し拡大)

この旧土地台帳も渋澤榮一の名ではじまる。明治28年に個人に所有権は移転し、昭和22年に所有権は県へと移転する。当初の地目は原野であったが、沿革に「明治廿九年四月廿七日二届宅地二開墾」とあり、明治29年より宅地となった。所有者の曾根家の曾根忠兵衛は、神戸米穀株式会社取引所理事で帝国水産株式会社、東洋鯨株式会社の社長であった³⁸⁾。

神戸市中央区 楠町七丁目
字 木保 地番 永百拾四番ノ三番 地番 13
等級 拾六等
沿革
明治廿四年七月廿五日民有地
成賦祖所分済
反別九反九畝十四歩 地価一円三十六銭
地租三銭四厘 明治二十八年八月元日訓令
台裂二付四迄の枝番ヲ付シ次葉二掲記ス 反
別四畝壹歩地価四銭地租壹厘増 明治廿九年
十月廿三日訓令二二六五号官有地成
昭和十一年法律第三十六号二依リ賃貸価格ヲ
改訂シ次欄ニ改記ス
所有者 主住所 買取主氏名
渋澤榮一
兵庫県

神戸市中央区 楠町七丁目
字 木保 地番 永百拾四番ノ三番 地番 11
等級 拾六等
沿革
明治廿九年四月廿七日二届宅地二開墾
所有者 主住所 買取主氏名
曾根忠兵衛
曾根千代
曾根正夫
兵庫縣

図15 楠町7丁目旧土地台帳 地番10- 1³⁹⁾ (部分) (図12の3) (□で示した部分を抽出し拡大)

この土地は、現在の大倉山公園である。大倉喜八郎の別邸跡として有名だが、ここも元の所有者は渋澤榮一であった。楠町7丁目の大倉喜八郎の所有した土地のみ、所有権が神戸市へと移転していることがわかる。また、東京都公文書館には「大蔵喜八郎・渋沢栄一より東京府知事へ神戸坂本村官有地払下人名義変更願に付聞届 明治23年3月13日」という文書があり、楠町7丁目の旧土地台帳に登場する「渋澤榮一」は大倉喜八郎との関係性からも、近代日本資本主義の父と言われる渋沢栄一であろう。ちなみに、近代郊外住宅開発史では田園調布株式会社設立者として、設立の際には小林一三に教えを請うたこと等のエピソードが知られる。

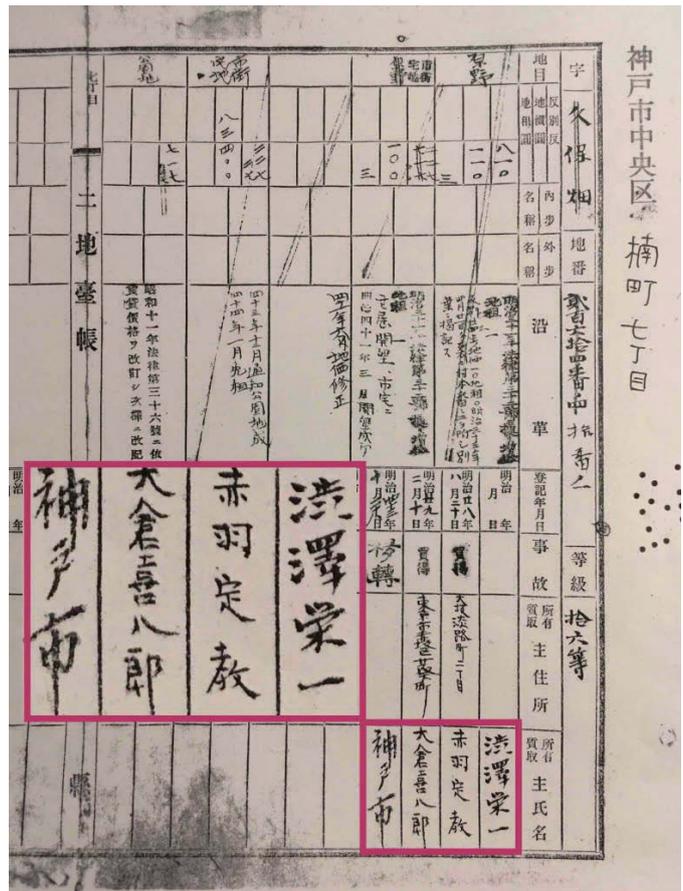


図16 日本版古海図 第101号 大正8年(1919) 3月27日印刷発行⁴⁰⁾ (部分) (作図：山本)

この図は、神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ稀覯書・貴重書で平成31年(2019)4月に公開された大正8年発行の海図に神戸病院の建物を水色でトレースしたものである。黄色は大正8年に消失した神戸商業学校である。トレースしていない原図は以下で確認できる。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kichosyo/oldcharts/>

ホームページによると、大正7年旧日本帝国海軍の測量に基づいて刊行されているものとある。同じものは、東北大学外邦図デジタルアーカイブでも「海図101号」で確認できる。

<http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/viewer/index.php?ghzno=KY010884>

この図は、神戸商業学校と病院が併設されている時のもので、大変貴重なものである。これらの海図は明治28年昭和9年とあるが、明治28年のものは病院の建物は確認できず、昭和9年は大正8年のものと同じであった。

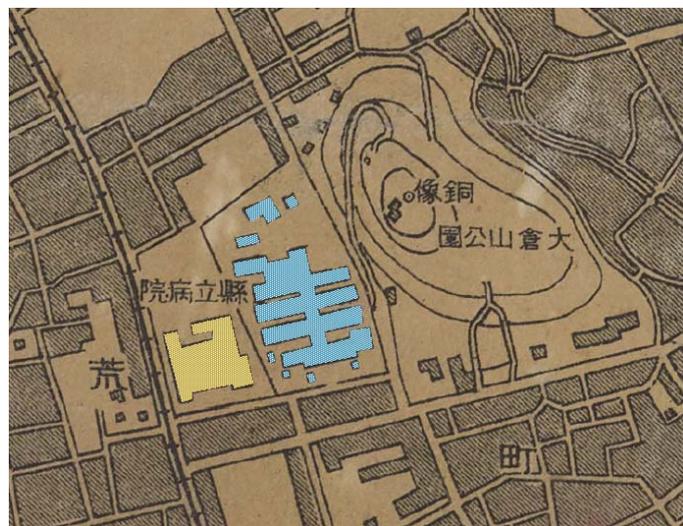




図17 大正12年(1923)測図 大日本帝國陸地測量部 神戸西部1/10000⁴¹⁾(部分)(神戸市立図書館蔵)(作図:山本)

この図は、大正12年の神戸病院の建物を水色でトレースしたものである。赤色は赤十字病院である。神戸商業学校跡地に敷地を広げ、現在の神戸大学医学部附属病院の敷地規模に近い広さになっている。神戸商業学校の建物があった箇所を囲うように建物が増築されている様子が伺える。昭和5年に建て替えられる以前の様子を確認できる貴重なものである。

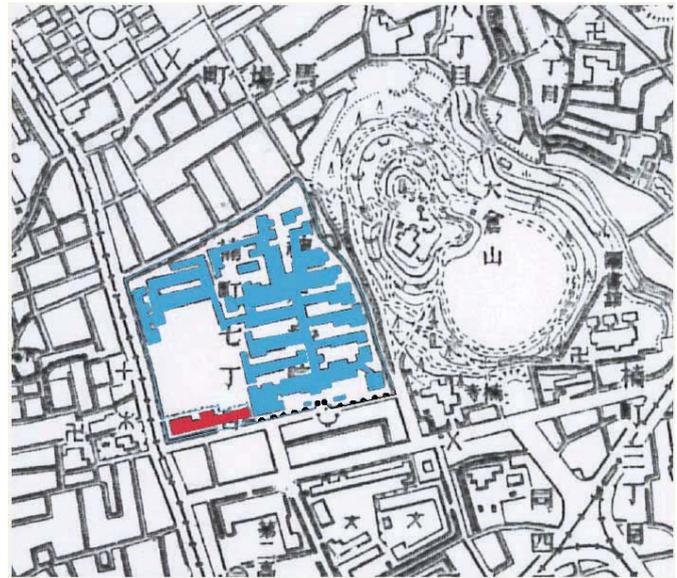
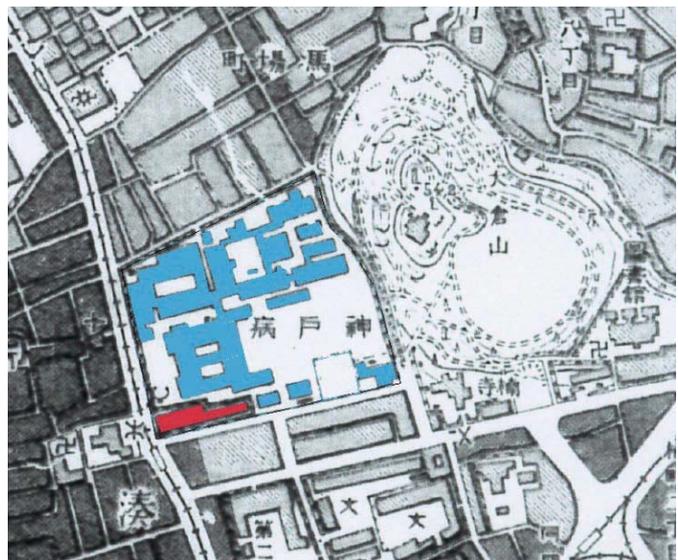


図18 大正12年測図 昭和7年(1932)修正 大日本帝國陸地測量部 神戸西部1/10000⁴²⁾(部分)(神戸市立図書館蔵)(作図:山本)

昭和7年の神戸病院の建物を水色でトレースしたものである。赤色は赤十字病院である。昭和5年の建て替え時の平面図と一致する。図17のものと比較すると建物と地面の庭部分が地と図の反転になっている。まず、空いている土地に建物を建て、順番に機能面等を移動させながら壊して建てるという、よくある手法で建て替えられたと推測できる。



おわりに

今回紹介しました資料は、建築に関わるもの、インターネット上で確認できないものを中心にしましたのでごく一部となりました。これらの資料により神戸病院の歴史の一端ですが解明することができました。それについては学術誌にて報告させていただく予定です。

他には、インターネット上で確認できます公文書を中心とした資料(初見の外国人医師、梅毒病院の普及に関わった英国医ヒール、鈴木徳男、西広吉、江馬賤男、杉田雄ら明治期に活躍した人物の資料、医学校生徒の徴兵猶予や医学校廃止時の資料、西南戦争時の診断書や死体検案書等)を約100点程度確認することができました。

今回、発見した資料で、特に地図資料は、神戸市中央図書館の職員の方々のご協力がなければ見つけれなかったものが多数あります。また旧土地台帳については神戸地方法務局の方々にご教授していただきました。ここに記し感謝いたします。

また、この原稿を書き終わる直前に渋沢栄一が新一万円札の顔になることが決まりました。神戸病院150年の記念にタイミングがよかったと思っております。

註

1. 山本ゆかり「近代郊外住宅地の萌芽的形成・住吉村を事例として」(日本建築学会計画系論文集,70巻592号, pp.233~238, 2005) 我が国最初とされる明治43年の小林一三の住宅地開発より早い明治33年に住吉村で阿部元太郎による住宅地開発が行われていたことを明らかにしている。
2. 藤田英夫「神戸病院の明治初期の写真に関する一考察」(神戸史談255号, pp.10~21, 1984)
3. 住野公昭「明治期の神戸病院:40周年記念事業資料から」(神戸大学医学部神緑会学術誌1, pp.57~59, 1985)、住野公昭「明治期の神戸病院:その後の資料から」(神戸大学医学部神緑会学術誌2, pp.85~89, 1986)、住野公昭「明治期の神戸病院:人々の活動」(神戸大学医学部神緑会学術誌3, pp.138~142, 1987)、寺島俊雄、薛 富義「明治期の神戸病院の跡地を尋ねて」(神緑会ニュースレター第5巻4号, pp.23~27, 2014)、寺島俊雄「1枚の卒業記念写真 一 神田知二郎と杉田雄一」(神緑会ニュースレター第6巻1号, pp.27-32, 2014)、記念誌編集委員会「歴史展示2」(神緑会ニュースレター第6巻4号, pp.41-42, 2015)、記念誌編集委員会「歴史展示3」(神緑会ニュースレター第7巻2号, pp.36-43, 2015)、藤田英夫「明治初期の神戸病院」(神戸大学医学部神緑会学術誌32, pp.11~16, 2016)、寺島俊雄「神戸病院初代病院頭アレキサンダー・ヴェッターに関する新事実」(神緑会ニュースレター第7巻4号, pp.17~24, 2016)
4. 青木正夫「幕末から明治初期における学校附属病院の成立過程と配置および平面構成について」(日本建築学会計画系論文報告集, 376巻, pp.36~50, 1987) ここでは「維新から明治4年の廃藩置県までに設立された医学校兼病院として神戸病院の名があるが、それ以上の言及はない。また「明治初期の医学校兼病院は現在文献等から判明していることから判断すると、明治9年頃から病院として新築されるケースが出てくるがそれ以前はほとんど既存の建物例えば大名屋敷、一般の民家、廃院となった寺院、町会所、倉庫などを改造してつくられたものである。数少ない新築の例としては、高知の吸江病院(明治5年) 開拓史の函館病院(明治4年) 札幌病院(明治6年) 等があげられる。」とある。これから、明治2年に完成した神戸病院は現時点で確認されている我が国で最初に建てられた洋風建築の医学校兼病院であることがわかる。現時点で明治初期の病院に関する建築学の研究は、軍病院を除くとこの研究しかなかった。
5. 「阪神間モダニズム」展実行委員会『阪神間モダニズム』(淡交社,1997)、山本ゆかり「阿部元太郎による近代郊外住宅地開発 - 松風山荘住宅地を事例として」(日本建築学会計画系論文集, 72巻618号, pp.123~127,2007) 佐多愛彦が取得した土地の範囲を特定し、その土地で阿部元太郎による住宅地開発が行われたこと等を明らかにしている。
6. 公文録「藩雇米医ベタル御用二付兵庫表へ可差越御達」(1868)
7. 太政類典「長州藩雇米医ベタルヲ兵庫ニ召ス」(1868)
8. 兵庫県史編集専門委員会編「兵庫県史 第五巻」(兵庫県, p.723, 1974)
9. 「駒吉虚病診断書」「診断書」ともに神戸大学附属図書館所蔵 神戸開港文書, その他(1869)
10. 北根豊編「日本初期新聞全集23」(ペリかん社, p.181, 1986)
11. 歴代兵庫県知事(兵庫県ホームページより) https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk32/pa13_000000016.html
12. 神戸開港文書「List of American Residents at Kobe (神戸在留アメリカ人名一覧)」神戸大学附属図書館所蔵, 神戸開港文書, 居留地, 人口分類(年代不明)
13. 神戸開港文書「柴屋権左衛門米国人ステープル地所取継一件」神戸大学附属図書館所蔵, 神戸開港文書, 土地, 土地貸借(1871)
14. 外務省記録「ゼームスハルリス氏神戸大阪在留布哇国領事二任命ノ件 明治五年九月」(1872)
15. ユネスコ東アジア文化研究センター編「資料御雇外国人」(小学館, p.354, 1975) ハリス ハルリス→ハリスとある。
16. 公文録「鉄道寮雇米人セームスハーリス満期雇止届」(1875)
17. 立脇和夫監修「幕末明治在日外国人・機関名鑑: Japan directory」(第2巻, 第3巻, 1996)
18. 「御雇外国人一覧」(中外堂, 1872)
19. 前掲書8に同じ。p.732
20. 外務省記録「神戸在留亜米利加国医師「ベーリー」ヨリ牢死者死体解剖方出願一件」(1872) 兵庫県史ではヘルリー、ヘーリーとなっている。
21. 立脇和夫監修「幕末明治在日外国人・機関名鑑: Japan directory」(第2巻, 1996)
22. 前掲書15に同じ。p.398
23. United Church Board for World Ministries「Annual Report - United Church Board for World Ministries.」第63巻, p.60
24. 前掲書17に同じ。Rev.は牧師を指す。
25. 前掲書15に同じ。(小学館, 1975) p.334



26. 立脇和夫監修「幕末明治在日外国人・機関名鑑：Japan directory」(第3巻, 第4巻, 1996)
27. 神戸市編「神戸100年：写真集」(神戸市, p174, 1989)
28. 大国正美「古地図で見る神戸」(神戸新聞総合出版センター, p72, 2013)
29. 地図資料編纂会編「日本近代都市変遷地図集成」(柏書房, 1987)
30. 清水靖夫「明治前期・昭和前期神戸都市地図」(柏書房, p48, 1995)「明治19年測図, 大日本帝國陸地測量部 兵庫」(大日本帝國陸地測量部編, 1887)を1/10000に拡大したもの
31. 土居晴夫「神戸居留地史話」(リーブル出版, p.151, 2007.9)
32. 公文録「兵庫県懲毒院建築費貸下ノ件」(1879)
33. 山川鶴吉「神戸市圖：附名勝舊跡」(1900)
34. 陸軍省大日記「兵庫県下神戸区坂本村旧砲兵營接続地返地に付御届」(1888)
35. 高梨彌三郎「神戸市新圖：附姫路市新圖 第6版」(高梨東神堂, 1903)
36. 神戸市地方務局(本局), 旧土地台帳, 神戸市中央区楠町7丁目5-1, 5-2。病院の地番は13,14合併地となる。5-1, 5-2は地番13となる。
37. 神戸市地方務局(本局), 旧土地台帳, 神戸市中央区楠町7丁目5-1, 5-2。地番11は枝分かれしたもの。ここでは元となる旧土地台帳のみ示している。
38. 木内英雄「神戸紳士録」(1911), 日本図書センター「明治大正昭和神戸人名録」(1989)
39. 神戸市地方務局(本局), 旧土地台帳, 神戸市中央区楠町7丁目2-1。地番10-1は枝分かれしたもの。ここでは元となる旧土地台帳のみをのみ示している。明治28年に赤羽定教に移転後明治29年2月10日に大倉喜八郎所有となり明治43年9月6日に神戸市所有となる。
40. 神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ稀覯書・貴重書「日本版古海図 第101号 大正8年3月27日印刷発行」
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kichosyo/oldcharts/>
41. 大日本帝國陸地測量部「神戸西部1/10000」(大日本帝國陸地測量部編, 1929)、大正12年測図
42. 大日本帝國陸地測量部「神戸西部1/10000」(大日本帝國陸地測量部編, 1932)、昭和7年修正図

参考文献等

- 神戸医科大学史編纂委員会編「神戸医科大学史」(神戸医科大学, 1968)
- 神戸大学医学部50年史編纂委員会編「神戸大学医学部五十年史」(1995)
- 神戸大学百年史編集委員会編「神戸大学百年史 通史1」(神戸大学百年史編集委員会, 2002)
- 神戸大学百年史編集委員会編「神戸大学百年史写真集」(神戸大学, 2002)
- 佐藤静馬編「神戸市立東山病院史」(神戸市立東山病院, 1956)
- 日原辰之助編 佐治繁一編「楠町の今昔」(楠町史蹟保存會, 1936)
- 神戸大学附属図書館「神戸開港文書」
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kaikou
- 神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ稀覯書・貴重書
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kichosyo/>
- 長崎大学附属図書館「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>
- 長崎大学附属図書館「幕末・明治期日本古写真超高精細画像」
<http://sepia.lb.nagasaki-u.ac.jp/zoom/jp/index.html>
- 国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/>
- 東北大学附属図書館／理学部地理学教室 外邦図デジタルアーカイブ
<http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/index.php?lang=ja-JP>

卒業式と謝恩会

卒業の日によせて

神戸大学医学部医学科卒業生 狩野綾乃 (平成31年卒)

桜の蕾も膨らみ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。平成31年3月26日。ほんのりと霞んだ早春の空にさわやかな風が吹きわたるこの素晴らしい日に、卒業の日を迎え、医師として新たな一歩を踏み出しますことを、卒業生一同心より嬉しく思います。

思い起こせば6年前。私たちは、これから始まる新しい未来への大きな期待と、それと同じくらい大きな不安を抱き、本日と同じ会場にいました。入学当初は生活の変化に対応しきれず戸惑うこともありましたが、諸先生方のご指導や職員の方々の親切なサポート、素晴らしい友人たちとの出会いによって、授業、実習、部活など様々な場で経験を重ね、大変充実した大学生活を送ることができました。もちろん、その全ては楽しいものではなく、辛いことや悩んだことも数多くありました。しかし、それらを

乗り越えたからこそ、自らの6年間の成長や変化を実感し、神戸大学を母校とすることができてよかったと強く感じておりますし、在学中に学んだ数多くの知識や経験は、今後の私の人生においてかけがえない財産になることでしょう。明日からの人生の節目においてその都度、ここで学んだことの意義をかみ締め、託された使命を精一杯果たしていきたいです。

最後になりましたが、私たちが神戸大学の学生として本日ここにあるのも、ひとえに熱心にご指導くださいました先生方、大学生活を支えてくださった職員の方々、そして家族のおかげであると深く感謝しております。神戸大学で学び得たことを卒業生一同誇りに思います。これからの神戸大学と神緑会の益々の発展をお祈り申し上げ、卒業生の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



前田会長



横崎 宏医学科長と卒業生



平田病院長



的崎学部長と卒業生



藤澤新医学部長と卒業生



教員と卒業生（第一グループ）



教員と卒業生（第二グループ）



教員と卒業生（第三グループ）

令和元年度神戸大学医学部医学科 新入生歓迎合宿報告

医学部医学科長 ^{さき} ^{さか} 旬 坂 敏 朗



医学・医療は、我が国のみならず世界中の人々の健康、生活にとってきわめて重要な役割を担っています。そのため、医学・医療には、必ず解決しなければならない未知の問題が起こってきます。未知の問題に向き

合った時、既存の知識や技術では解決出来ません。その時に解決の方法を導き出せる、科学的な考え方を身につけた医師、医学研究者を育てることが必要です。本医学科は、「科学者の視点を持った医師、医学研究者の養成の推進と、学部入学段階から卒業・大学院までの一貫した取り組みにより基礎医学研究者の育成を行うこと」を使命に掲げ、全国に先駆けて昭和36年から、学生全員が基礎医学研究を体験する「基礎配属実習」を行い、医学研究教育に力を入れてきました。その歴史の中でシグナル伝達医学研究において多くの世界的な実績を挙げ、優秀な基礎医学研究者やクリニシャン・サイエンティストを輩出し、さらには、世界をリードする再生医学研究者を輩出するなど、本医学科の医学研究教育は国内外で高い評価を得ています。

本医学科は、「地域への貢献を含めたグローバルな視野で活躍できる医師及び医学研究者の養成を

積極的に推進する」を使命に掲げています。陸・空・海に開かれた国際都市である“神戸”の特色を活かし、次世代国際交流センターを中心として、積極的に海外の大学医学部と国際交流協定を結び、数多くの留学生を受け入れると同時に、数多くの学生を海外派遣しています。また、社会的な問題である医師・医療の地域偏在に対処できるよう、地域医療活性化センターを中心として、兵庫県の医学・医療機関との地域連携を強化し、地域医療教育のさらなる充実に取り組んでいます。

医師、医学研究者には、「豊かな人間性・社会性と真の意味での高い見識・倫理観」が必要不可欠であります。本医学科では、医師としての基本的知識技能を修得することに加え、“常に相手の立場・第三者の立場で、広くそして深く考える”習慣を身につけた将来の医学・医療の発展を担う志の高い人材を育成したいと考えています。



河野教学委員長



古屋敷副教学委員長



勝二教授と学生



河野教学委員長と学生

新入生抱負

新入生歓迎合宿委員長

神戸大学医学部医学科4年生 橋本 峻 我

神戸大学医学部医学科1年生 小柴 奈々美



僕は今まで何かのグループのリーダーになったことがなく、今回、初めてリーダーになる事が決まった時、最初は上手くやる自信がありませんでした。数人のグループですらまとめた事の無い僕がいきなり50人のグループを率いて、新入生を含む総勢170人弱の合宿を取り纏めることができるのかという不安がありました。しかし、僕自身が想像してた以上に周りからの応援や支援などがあり、不安はすぐに解消されました。それと同時に周りからの視線などを感じ、自分はミスできないこと、周りに頼ってはいられないこと、自ら能動的に動かなければいけないことなど、今まで自分が1グループの端でのんびりしていた為感じられなかったことを初めて知ることができました。ミスをしない慎重さ、自立性、そして受動的にならないということは医師になった後も重要になることばかりなので、これらの能力を伸ばせる新歓委員長という仕事に就いたことをとても誇りに思います。

仕事は大変で疲れを感じる時もありましたが、その分やりがいがあり、全てが終わって家に着いた時の達成感と充実感は言葉では言い表せない程でした。また、仕事を通じて普段あまり喋らない友達とも仲良くなり、合宿中には新入生とも仲良くなり、交友関係も以前より深まりました。

合宿の準備はなにかと板挟みになる仕事でしたが、合宿当日は皆が自分の役割を理解し、的確に動いてくれたおかげで大きなトラブルも無く2日間過ごすことができました。今回の経験を活かし、次に繋げていこうと思います。

最後に、合宿や準備を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

2019年、4月1日、2日。新年度の幕開けとともに迎えた一泊二日の新歓合宿。全く顔見知りの人がいなかった私が抱いていた、友達ができるだろうか、という不安は杞憂だった。合宿の期間を通して、一緒にいるのが心地よいと心から思える友人をたくさん見つけることができた。合宿当日の夜はみんなでひとつの部屋に集い、和気藹々と話をして盛り上がった。お互いのことを知れば知るほど親近感がわき、ますます仲が深まっていく感覚をおぼえた。午前5時46分、日の出の時刻。私たちは朝日を見るため、みんなで海まで散歩した。太陽の光が朝もやに乱反射してきらきらと輝くその景色に誰もが息を呑んだ。その時に見た朝日の美しさは、生涯胸に刻み込まれ続けることだろう。きっと、この仲間と一緒に見たからこそ、そう思えるのだ。そんな風に思える友人と出会うことができたのも、新歓合宿に参加したおかげであり、心の底から幸せに思う。また、初年次セミナーでは、大学での「学修」の意義をはじめ、きたる大学生活に向けての心構えや備えについての有意義なお話を聴くことができ、非常に充実したものとなった。さらに、先輩方からの部活動勧誘を通して各部活動の活動内容や実情を知ることができ、自分にあった部活動を決めるきっかけとなった。不安を抱えて臨んだ新歓合宿は、新生活への期待とともに幕を閉じた。

新歓合宿を終え、大学生活をおくる士気を高めることができた。大学では、何事にも全身全霊で取り組み、己を邁進させる場として様々な活動に取り組みたい。日々の講義や実習で見識を広げるとともに、部活動の練習で身体健康増進を図りたい。また、バディ制度等を有効に活用しながら留学等にも主体的に参加し、既成観念の打破とより多様な視点の獲得を目標に掲げたい。大学生活の開闢ともいえる新歓合宿を実りあるものにするべくお力添えくださった全ての方々へ感謝の気持ちを込めるとともに、会の一員にふさわしい学生となれるよう、粉骨砕身したい。

退職のご挨拶

神戸大学名誉教授

前神戸大学大学院医学研究科口腔外科学分野教授 古森孝英
(昭和54年東京医科歯科大学卒)

平成10年12月より平成31年3月までの20年4か月間、神戸大学医学部口腔外科学教室第2代教授として務めさせていただきました。この間、多くの方々へたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。また、大学卒業後、母校である東京医科歯科大学を経て、東京大学、神戸大学と3大学で40年間勤務できましたことを、たいへん幸せに感じています。

私のこれまでを振り返りますと、大阪府立天王寺高校3年生のときにエナメル上皮腫を経験したのをきっかけに口腔外科の存在を知り東京医科歯科大学に進学しました。卒業後は1年間の補綴研修の後、口腔外科研修をスタートし、2年後に榎本昭二教授の下で大学院に進みました。大学院では骨形成タンパク質に関する生化学的研究を久保木芳徳助教授(後の北大教授)の指導下で行い、学位論文終了後は再び口腔外科臨床に戻り、病棟管理や手術手技習得を中心とした毎日を送りました。その後、長期間不在であった東京大学医学部口腔外科に赤川徹弥教授が就任された際に、榎本教授の命で助手として勤務することになりました。

東京大学ではしばらくの間、混乱の時期がありましたが、その後収束し、落ち着きを取り戻すとともに、研究の重要性を再認識することになりました。ちょうどそのころ、日本で初めて発売予定の歯科用レーザー機器が東大に持ち込まれ、赤川教授の命でレーザーに関する研究を担当することになりました。このレーザーに関する研究では、医科歯科大学の先輩であった昭和大学歯学部歯内療法学の松本光吉教授にたいへんお世話になりました。また、東大では臨床を大きく、唇裂口蓋裂・顎変形症・腫瘍の3部門に分けていましたが、顎変形症の責任者であったことから、3次元実体モデルの開発研究も担当することになりました。これら以外にもいくつかの研究に同時に取り組んでいたので多忙な毎日でしたが、協力して手伝ってくれる医局員も何人もいて、充実した研究生活を送ることができました。

そして東大口腔外科の中心であった高戸毅先生が助教授から教授に就任されるに伴い、講師に昇任させていただきました。その約1年後に高戸教授から勧められた神戸大学口腔外科の教授選考に応募することになりました。平成9年12月に応募した教授選考は翌年8月になって最終候補4人に残ったとのことで講演依頼が届き、10月の教授会で最終選考が行われ運よく就任が決定しました。

平成10年12月に赴任した神戸大学では、研究・臨床・教育と3拍子揃った大学病院らしい口腔外科教室を目指しました。研究面では、学会発表・論文発表を積極的に行うことを目標の一つとしました。当初は教員一人あたり年間3論文などのノルマを掲げたりもしましたが、自発的に取り組んでくれる教室員も多く、教室として年間60の学会発表、30の論文発表も自然と達成されるようになりました。学位取得は大学の特権ともいえる大事なもので、最低年間2名、一人でも多く大学院に進学させることを目標としました。この20年間で216名が入局しましたが、55名が学位取得してくれたことは嬉しい限りです。

臨床面では、腫瘍、顎矯正、レーザー、インプラントなどの専門外来を中心とした診療を進めました。実際の臨床については、隣接領域である、耳鼻咽喉科頭頸部外科・形成外科をはじめ、多くの診療科の方々、加えて看護部や医療技術部の方々などのご協力をいただいたおかげで、目指していた大学病院歯科口腔外科らしい診療を続けてこられたと感じています。特に腫瘍は患者数も多く、再建を伴う長時間手術症例が多いことは全国に誇れる神戸大学の特長の一つですが、その分肉体的・精神的負担も重く、担当してくれた教室員には頭の下がる思いです。顎矯正については、東大時代に取り組んだ3次元実体モデルが先進医療を経て保険導入されました。レーザーについても神戸大学の特長の一つですが、教室員が積極的に取り組んでくれたおかげで、平成30年に血管腫凝固術やレーザー機器加算などが保険導入されました。

また、教室の発展のためにきわめて重要な研修医の確保や医員採用枠の増設などについても、歴代の研究科長、病院長、事務部長などをはじめ多くの方々が、歯科口腔外科に対して絶えず非常に好意的に対応していただきました。そのため、毎年大勢優秀な人材を確保することができましたこと、たいへんありがたく思っております。

平成10年の就任時には老朽化していた病棟・外来も、その後平成14年に新病棟が完成し、外来も平成26年に移転する形で一新され、清潔感があって十分

な広さも確保された満足できる診療設備が整いました。その他、医局や研究室などの改装も順次行うことができましたので、整った状態で次の世代に引き継ぎができることに安堵感を覚えています。

最後になりますが、これまで支えていただいた全ての方々に心から御礼申し上げます。そして、神戸大学の今後のますますのご発展と皆様のご多幸を祈念するとともに、歯科口腔外科に対してこれまで以上に応援いただくことをお願いして、退職のご挨拶といたします。



平成31年3月24日 古森孝英教授 退任記念祝賀会 於 ホテルオークラ神戸

神戸大学医学部創立75周年・神戸病院創立150周年 記念コンペ開催のお知らせ

令和元年9月1日（日）の記念式典に続き9月8日（日）記念ゴルフコンペを開催します。

場所：六甲国際ゴルフ倶楽部 東コース

神戸市北区のゴルフ場で神戸市内より車で30分以内。

毎年6月にサントリーレディーストーナメント開催。

数年前には日本オープンが開催されました。

今後3～4年後、再度、日本オープンを開催予定です。

アウト・イン合計8組の予定です。皆様、奮ってご参加ください。

神緑会事務局にご連絡ください。他にテニス等も計画中です。

31頁もご覧ください。

京都大学 iPS 細胞研究所(CiRA)便り

京都大学 iPS 細胞研究所

神緑会の皆様、平素は iPS 細胞研究所 (CiRA) に継続的なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
今号では、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立神戸アイセンター病院、国立大学法人大阪大学医学部附属病院、国立大学法人京都大学 iPS 細胞研究所並びに国立研究開発法人理化学研究所が連携して実施した「滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞懸濁液移植に関する臨床研究」の移植後1年の経過観察終了のご報告、「筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者を対象とした治験開始」についてご紹介いたします。

滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞懸濁液移植に関する臨床研究

神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立神戸アイセンター病院、国立大学法人大阪大学医学部附属病院、国立大学法人京都大学 iPS 細胞研究所並びに国立研究開発法人理化学研究所が連携して実施した「滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞懸濁液移植に関する臨床研究」(総括責任医師：栗本 康夫) に関して、移植後1年の経過観察を終了した旨の報告を第123回日本眼科学会総会(場所：東京国際フォーラム)において発表いたしました。

平成29年3月から9月にかけて、滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞懸濁液移植の安全性を確認する臨床研究を5例実施し、移植後1年の経過観察を全て終了しました。

全例において、CiRA が提供した他家 iPS 細胞から作った網膜色素上皮細胞に対する免疫反応を免疫抑制剤の投与なしに局所ステロイド投与のみで抑えることが可能でした。HLA 適合させた他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞の移植後1年での安全性が確認されました。

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者を対象とした治験開始について

京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) の井上治久教授らは、「筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者を対象としたポストニブ第1相試験」を計画してきました。独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) に治験計画届を提出し、この度、京都大学医学部附属病院(治験責任医師 脳神経内科高橋良輔教授)、徳島大学病院(治験責任医師 神経内科和泉唯信特任講師)、北里大学病院(治験責任医師 脳神経内科永井真貴子講師)、鳥取大学医学部附属病院(治験責任医師 脳神経内科渡辺保裕講師)にて、医師主導治験を開始する運びとなりました。

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) は、運動ニューロンが変性して筋萎縮と筋力低下を来す進行性の疾患



治験開始の記者会見にて



で、治療薬としてリルゾールやエダラボンが使用されています。しかし、ALS は根本的治療が難しい疾患であり、さらなる治療薬の開発が求められています。CiRA の井上治久教授らは、ALS 患者さん由来の iPS 細胞を運動ニューロンへ分化させ、その細胞を用いて、既に他の疾患で治療薬として用いられている物質を含むさまざまな種類の化合物の中から運動ニューロンの細胞死を抑えることができる化合物のスクリーニングを行いました。その結果、細胞死を防ぐ物質としてボスチニブを同定し報告しました。ボスチニブ（販売名：ボシユリフ[®]錠）は、前

治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病の治療薬として用いられている既存薬ですが、ALS の病態である、細胞内の異常タンパク質蓄積を抑制する働きと運動ニューロンの細胞死を抑制する働きを示すことが、ALS 患者さんの iPS 細胞モデルと ALS モデルマウスで認められています。ボスチニブは慢性骨髄性白血病の治療薬として用いられている既存薬ですが、ALS 患者さんにおける安全性は明らかにされていないため、本治験では、ALS 患者さんに対するボスチニブの安全性および忍容性を評価することを目的としています。

適格基準や治験に関するお問い合わせは以下のページをご覧ください。

UMIN-CTR 臨床試験登録情報の閲覧（医療関係者向け）

https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000041294

尚、外来通院ができない方、経口内服ができない方、人工呼吸補助装置を使用中的の方は対象となりません。

治験実施体制

■研究代表者

京都大学 iPS 細胞研究所 井上治久 増殖分化機構研究部門 幹細胞医学分野 教授

■治験調整事務局

治験調整医師：徳島大学病院 和泉唯信特任講師、京都大学 iPS 細胞研究所 井上治久 教授、
イーピーエス株式会社

本治験の支援

本治験は、下記機関より支援を受けて実施されます。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）臨床研究・治験推進研究事業
「患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための医師主導治験」

本治験の治験薬は、下記機関より提供を受けます。

ファイザー株式会社

【iPS 細胞研究基金についてのお問い合わせ先】

iPS 細胞研究所 iPS 細胞研究基金事務局

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
TEL：075-366-7152 FAX：075-366-7185
メール：ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp
資料請求専用フリーダイヤル：

0120-80-8748（平日 8 時半～17 時）

ハシレ ヤマナカ シンヤ

京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。
URL は以下の通りです。
<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

小児筋電義手バンク

～子どもたちの夢・希望 実現のために～

上肢を欠損した子どもの発育に有用な筋電義手の普及を図るため、小児筋電義手バンクを開設しております。

多くの皆様方からの心温まるご寄附をお待ちしております。

総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所
所長 陳 隆明



○事業の概要

1 筋電義手の確保

- ① 筋電義手を使用されている方に、成長に伴い大きさが合わなくなり、不要になった小児筋電義手の提供を働きかけます。
- ② 筋電義手の購入やメンテナンス等のために必要な寄附を県民や企業等に広く呼び掛けます。

2 筋電義手の貸し出し

訓練のために必要な小児に筋電義手を貸し出します。

3 人材の育成

今後の計画として、連携病院を募り、訓練できる人材を育成するとともに、連携病院を通じて筋電義手を貸し出します。



ご寄附や事業の内容に関するお問い合わせ

小児筋電義手バンクへの寄附については、次の①又は②の窓口までお問い合わせください。

①兵庫県の「ふるさとひょうご寄附金」*への寄附

兵庫県健康福祉部障害福祉局
ユニバーサル推進課
住 所 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL 078 (362) 4379
FAX 078 (362) 9040

②兵庫県社会福祉事業団への寄附

兵庫県立福祉のまちづくり研究所
ロボットリハビリテーションセンター課
住 所 兵庫県神戸市西区曙町1070
TEL 078 (927) 2727
内線3810又は3811
FAX 078 (925) 9284

*税制上、より優遇を受けることができます



「歴史的事実の提示」の配布について

平成28年12月にスタートした神戸大学医学部創立75周年・神戸病院創立150周年記念事業についての関連資料は、当初150周年関連の記録、次いで75周年関連の記録を年4回発行のニューズレターに発信してきました。以前からの記録、藤田英夫元京都大学化学技官や寺島俊雄神戸大学名誉教授による既発表記事、次いで75周年の間におきた兵庫県立医専、県立医大時代の英語教育、基礎配属実習、神緑会館の建設や2012年の山中先生のノーベル賞受賞等を収録したものです。

この完成直後に開かれた神緑会評議員会で意見交換した際に「評議員を通して手渡しで会員にお渡しすること」が提案された。その結果、各クラス代表や各支部長等にお送りしたが、個別の配布は、同窓会の開催等は別として直接会う機会のある人は少なく、配布が進んでいない状況があるかと思えます。

他の会員個人への送付は、大阪と加古川で開催した「学部長、病院長講演会」の出席名簿に従ってお送りした。募金事業との関連でしか考えないよりは、いろんな機会に神戸病院の歴史や医学部の教育の特徴についてお考えいただくことが重要で、今後も機会があれば各会員の手元に届くように、各人が家宝のように保管していただければと考えます。神緑会事務局にご連絡ください。

一般社団法人 神緑会

一般社団法人神緑会・神戸大学大学院医学研究科からの特別なお願い

目次

	page
1. 神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念事業募金趣意書 (第1報) (ニューズレター第7巻第3号4頁)	2
2. 神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念事業募金趣意書 (第2報) (ニューズレター第9巻第4号4頁)	3
3. 活動内容のまとめ 医学研究科記念事業ワーキンググループ長 小川 渉 (昭和59年卒)	4
4. 寄付の呼びかけ (ニューズレター第9巻第4号4頁)	5
	坂上 明 (昭和24年 医専1回生) 5
	(ニューズレター第9巻第4号5頁) 神緑会副会長 谷 恵美子 (昭和58年卒) 5
	(ニューズレター第9巻第4号6頁) 神緑会副会長 奥町富久丸 (昭和48年卒) 6
	(ニューズレター第9巻第3号6~7頁) 神緑会副会長 中野 康治 (昭和52年卒) 7
150周年の基点	
5. 明治初期の神戸病院 (ニューズレター第6巻第2号9~14頁)	8
	元 京都大学総合人間学部 藤田 英夫 氏
6. 明治期の神戸病院の跡地を尋ねて (ニューズレター第5巻第4号23~27頁)	14
	神戸大学大学院医学研究科 寺島 俊雄 他
7. 県立神戸病院のモニュメントの解説 - 大発見の解明は昔の写真から - (ニューズレター第8巻第2号16~18頁)	18
	神緑会事務局 西島 政夫
75周年の基点と重要項目	
8. 兵庫県立医専の発足 - 徳島医学専門学校の閉校に伴う兵庫医専への学生移動 (ニューズレター第9巻第2号25頁)	21
9. 医専・医科大学の貴重な写真の募集 (ニューズレター第8巻第2号13~15頁)	22
	下奥 仁 (昭和29年卒)
10. 黎明期の神戸大学医学部に偉大な足跡を残した金子敏輔先生・医学英語教育 (ニューズレター第6巻第3号33~41頁)	25
	高階 経和 (昭和29年卒)
11. 兵庫県立神戸医科大学での医学教育の今日的意義・基礎配属実習実施 (ニューズレター第9巻第4号25~35頁)	28
	松尾 理 (昭和42年卒)
12. 神緑会館を中心とした50周年記念事業について (学術誌第17巻50周年記念号53~56頁)	36
	下奥 仁 (昭和29年卒)
13. ノーベル賞受賞の喜びの言葉 (2012年10月8日) (ニューズレター第4巻第3号2頁)	40
	山中 伸弥 (昭和62年卒)
14. 神緑会からの心からのお祝い・経過と今後の進め方 (ニューズレター第4巻第3号28~30頁)	41
	会長 前田 盛 (昭和46年卒)
15. 60周年記念事業と楠地区建物の現状	44
16. 記念事業の本格化へ 一般社団法人神緑会の考え (第1報) 平成27年12月吉日	45
17. 9桁の意味、記念事業終盤へ 一般社団法人神緑会の考え (第2報) 平成30年4月18日	46
18. 記念事業としての座談会開催について	47

寄付のお願い

残り4ヶ月、ラストスパートへ

前回より思ったほどの増加ではなかったが、今回の記念式典の準備、山中ノーベル賞受賞者効果、「座談会の記録」効果等で残り4ヶ月で目標を達成できるようお願いします。

学内のワーキンググループ9メンバー交代も含めて、文章をお送りするだけでなく、直接、ご依頼に足を運ぶことになったと聞いております。

50周年記念事業は、平成6年に式典が行われ、その時点では、寄付者が1,000名弱で式典参加者も111名と少なかった。平成13年に同窓会館である神緑会館の完成時には、寄付者が1,856名であったことから式典の開催時期に問題があったかもしれない。

今回の記念式典では、**寄付者は金額のいかんに関わらず招待することを訴えていきたい**。今号での山本ゆかり建築デザイナーの力作は、明治33年頃の建築の流行の変化の研究の過程で現在地への移転研究に結びついたらしい。下山手八丁目、楠町7丁目が親しみをもって次世代につながり、神戸大の益々の発展を期待したい。

卒業年 (和暦)		寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)		寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)		寄付者数 (人)	卒業年 (和暦)		寄付者数 (人)
昭和24年	@	3	昭和42年	@	10	昭和60年		12	平成15年		3
昭和25年		1	昭和43年	* @@@	12	昭和61年	@	15	平成16年		2
昭和26年		1	昭和44年	@	6	昭和62年		4	平成17年		1
昭和27年		4	昭和45年		10	昭和63年		5	平成18年		1
昭和28年	@	3	昭和46年	@@	12 (2)	平成元年		6	平成19年	@	4
昭和29年		4	昭和47年		5	平成2年		8	平成20年		3 (1)
昭和30年		0	昭和48年	@	3	平成3年		4	平成21年		2
昭和31年		4	昭和49年		8	平成4年		4	平成22年		3
昭和32年		1	昭和50年	@	5	平成5年		6 (1)	平成23年		2
昭和33年		1	昭和51年		5	平成6年	*	7	平成24年		1
昭和34年		4	昭和52年	@@	18 (1)	平成7年		3	平成25年		0
昭和35年	*@	4	昭和53年	*	7 (1)	平成8年		3 (1)	平成26年		1
昭和36年		4	昭和54年		5	平成9年		12 (2)	平成27年		0
昭和37年		7	昭和55年	@@	9	平成10年		9 (1)	平成28年		1 (1)
昭和38年		2	昭和56年	@	15 (1)	平成11年		4	平成29年		1
昭和39年		3	昭和57年		10	平成12年		4	平成30年		0
昭和40年		10	昭和58年	@@	10	平成13年		5	特別会員	@@	31
昭和41年	@	5	昭和59年		9	平成14年		3	寄付合計 人数		390名 (12)

※1月末時点の合計人数378名

* クラス一同でのご寄付 @ 30万以上のご寄付 東海支部よりご寄付 ※総計 **約2億1,500万円強**



記念式典準備委員会の活動

一般社団法人神緑会75周年・150周年記念式典参加者確保の進め方について

春の好季節ですが、皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。神緑会役員の方々には、今回の記念事業に際し、先頭に立っての活動をお願いし、大変申しわけありません。

先般来、すでにもう二年以上の月日が経過し、特に寄附活動については、大変苦戦していますが、皆様方には「歴史的事実の提示」パンフレットの配布について、多大なご迷惑をおかけしました。

ゴールは、募金金額の目標達成でもありますが、むしろ、全卒業生に神戸大学医学部の150年の歴史の理解を賜わり、記念式典に多くの方々にご参加頂き、ともに喜ぶことが重要です。既に、全学年参加による「座談会のまとめの記録」が5月末には皆様に配布できることになりました。

従って、【歴史的事実の提示】の配布は、今後の活動の中で配布方法も含めて考えることとします。

4月13日理事会で相談し、9月1日の記念式典の参加者確保に全力を尽くしますのでよろしくお願い致します。

記念式典実行委員会 委員長 前田 盛 体制は順次整理します。

委員：学年代表、支部長及び支部評議員、神緑会理事及び顧問

<記念式典実行委員会活動内容>

1. 9月1日参加者の確保(後半に当日の日程)1000名の確保
2. 神緑会からの要望事項のまとめ、
3. 神緑会が提案する特別記念事業費(500万円)の使途
4. その他

式典日時：9月1日午後1時～ ポートピアホテル ポートピアホール
司会 神戸大学大学院医学研究科教授 ○○ ○○

式典内容：

1. 開式の辞 式辞 藤澤医学研究科長
挨拶 武田 廣 学長
来賓祝辞 知事、市長、医師会長
挨拶 一般社団法人神緑会会長
祝電披露
記念誌編集委員長 中村 俊一
謝辞 神戸大学
閉式の辞
2. 記念講演 午後2時30分 タイトル 未定
京都大学 iPS 細胞研究所長・教授 山中 伸弥
司会 ○○ ○○

-
3. 祝賀会 午後4時～ ポートピアホテル大和田の間
司会 ○○ ○○
開宴挨拶、来賓祝辞、挨拶、乾杯 閉宴



以上、簡単ですが、最新の大学情報をお伝えします。

従って、取り組みの内容（上記活動内容1～3）その他、お気づきの点を各学年代表、支部長、神緑会本部にお教えください。

50周年記念式典の記録と次なる記念式典

50周年の記録を確認しますと神緑会員の出席は、111名で出席確認をした会員で欠席と回答された会員は768名を超えることが判明しました（出席110名、欠席768名でした。総出席者239名、欠席1,274名）。式典の実施時期が平成6年9月25日であり、寄付者のまとめは、神緑会の平成8年7月24日現在で948名。ただ、大学と神緑会で組織した50周年記念事業後援会下奥仁（昭和29年卒）会長の報告（平成13年2月3日神緑会館の竣工式）では神緑会員の寄付者数は、1,856名となっています。阪神・淡路大震災を経て、免税システムが神戸税務署に届けて一定期間が免税されたので寄付者が増加したようです。

いずれにしろ、9月1日に1,000名を超える会員の出席が望まれると思います。50周年では、1.5万円の自己負担で運用されたようですが、祝賀会費用の考え方の整理も含めて、大学担当者とも相談し、学生も含む多くの方々の出席の場となるよう準備に努めます。

75周年記念事業の呼びかけ

24ページに掲載のように、ゴルフコンペを卒業生の自由参加で行います。運営にはゴルフ部学生の協力と商品その他、記念事業であることを楽しめるコンペとします。六甲国際以外では、ゴルフ部主催で10月6日にロータリーGCで6～8組の大会を計画中です。

次にテニス大会を準備します。学生のテニス部の協力とテニス部OBの参加となるでしょうが、テニス部以外の人も参加できる大会とします。

その他、ESSや美術クラブ等、記念事業としての学生、卒業生の参加しやすいテーマを募集しますので、7月17日締め切りで概要で結構ですからご応募ください。

ゴルフの9月8日が皮切りですので、9月～10月での台風のない日(?)での開催を目指します。

神緑会

編集後記

卒業と入学の年中行事が中心となりました。卒業生には、それぞれのマッチング病院で“鉄は熱いうちに打て”か“時間どりのゆるい研修”かの研修を楽しんでください。新入生は勉学と学修の中で大学生らしい生活を楽しんでください。

記念事業の終了間近の発行です。次の発行は9月1日の記念式典と同じ頃に学術誌、ニュースレターの同時発行ですから、ホームページ他の方法と大学との連携により、記念式典に1,000名以上の会員の出席を確保するよう努力することになります。

最後に神戸病院の明治・大正・昭和の各時代の建物の実態を、新しい角度からご紹介いただきました。4枚の写真と明治33年の現在地の移転、昭和5年の病院本館の完成に至る過程が繋がった事は、タイムリーであり、そのご努力に感謝します。同時にお送りする座談会記録は多様な内容を含みますので、大きく受け入れられることを希望します。

編集委員会

神緑会ニュースレター 第11巻第1号

発行 一般社団法人神緑会
会長 前田 盛
〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-1
神戸大学医学部内
TEL (078) 361-0616
FAX (078) 361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp
印刷 交友印刷株式会社
〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目4-5
TEL (078) 303-0088
FAX (078) 303-1320
info@koyu-p.co.jp

木と生きる幸福

住友林業グループ

スマリントケアライフは、住友林業グループの一員としてより質の高いサービスをより多くの皆様にご提供し、「安心・安全・快適」な暮らしをサポートしています。

閑静でありながら便利な、神戸市垂水区に立地。



平成19年4月撮影



介護付有料老人ホーム

ドマーニ神戸

(一般型特定施設入居者生活介護 / 入居時自立・要支援・要介護)

☎️ **0120(78)6665** (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態 / 利用権方式●利用料の支払い方式 / 一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件 / 入居時自立・要支援・要介護●介護保険 / 兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分 / 全室個室●介護にかかわる職員体制 / 1.5:1以上。
【施設概要】●所在地 / 神戸市垂水区本多町3丁目1番37号●交通 / JR「舞子」駅よりバス15分「舞子高校前」下車・徒歩5分(約340m)市営地下鉄「学園都市」駅からバス8分「舞子高校前」下車・徒歩2分(約130m)●構造規模 / 鉄骨(一部)鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階の1棟、鉄筋コンクリート造 地上10階の1棟●居室数 / 一般居室195戸、介護居室58室●土地建物の権利形態 / 土地・建物とも自社所有

街全体がバリアフリーの安心な住環境。
神戸市灘区「HAT神戸」に立地。



平成23年5月撮影



介護付有料老人ホーム

エレガノー摩耶

(一般型特定施設入居者生活介護 / 入居時自立・要支援・要介護)

☎️ **0120(01)4165** (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態 / 利用権方式●利用料の支払い方式 / 一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件 / 入居時自立・要支援・要介護●介護保険 / 兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分 / 全室個室●介護にかかわる職員体制 / 1.5:1以上。
【施設概要】●所在地 / 神戸市灘区摩耶海岸通1-3-10●交通 / JR「灘」駅より徒歩13分(約1km)、阪神「岩屋」駅より徒歩10分(約800m)●構造・規模 / 鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター東館5階)●居室数 / 一般居室134戸・介護居室96室●土地建物の権利形態 / 土地・建物とも自社所有

六甲の山並みを望む住みよい街。
神戸市東灘区に立地。



平成18年4月撮影



介護付有料老人ホーム

エレガノー甲南

(一般型特定施設入居者生活介護 / 入居時自立・要支援・要介護)

☎️ **0120(65)8208** (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態 / 利用権方式●利用料の支払い方式 / 一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件 / 入居時自立・要支援・要介護●介護保険 / 兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分 / 全室個室●介護にかかわる職員体制 / 1.5:1以上。
【施設概要】●所在地 / 神戸市東灘区本山町3-3-1●交通 / 阪急神戸線「岡本」駅より徒歩15分(約1,180m)、JR神戸線「摂津本山」駅より徒歩12分(約930m)、阪神本線「青木」駅より徒歩9分(約700m)●構造・規模 / 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上14階建(ケアセンター地上6階)●居室数 / 一般居室105戸・介護居室101室●土地建物の権利形態 / 土地は普通借地(平成16年契約、所有者は神鋼不動産(株))、建物は自社所有

神戸にも大阪にも近い、西宮に立地。
20年超のノウハウを結集し、2020年春オープン予定。

西宮北口駅から徒歩約7分
シニアレジデンスギャラリー
見学受付中
(完全予約制)

入居申込受付開始



外観(完成予想図)



シニアレジデンス

エレガノー西宮

(入居時自立・要支援・要介護)

☎️ **0800(100)2438** (10:00~17:00) 土曜定休

【西宮市サービス付き高齢者向け住宅運営指導指針による表示】●類型 / サービス付き高齢者向け住宅●居住の権利形態 / 利用権方式●利用料の支払い方式 / 一部前払い・一部月払い方式●入居時の要件 / 入居時自立・要支援・要介護●介護保険 / 在宅サービス利用可
【施設概要】●所在地 / 西宮市津門大塚町1番17●交通 / 阪急今津線「阪神国道」駅より徒歩4分(約320m)、JR神戸線「西宮」駅より徒歩11分(約880m)、阪急神戸線「西宮北口」駅より徒歩16分(約1,280m)●構造概要 / 鉄筋コンクリート造地上14階建2棟、5階建1棟●居室数 / 一般居室219戸・介護居室90戸●土地建物の権利形態 / 土地は普通借地(平成29年契約、所有者はアーク不動産(株))、建物は自社所有
※こちらの完成予想図は現計画段階のものです。予告なく変更する場合もございますのでご了承ください。

■お問い合わせ・資料請求等は、各フリーコールをご利用ください。

[経営・運営主体] (公社) 全国有料老人ホーム協会会員・(一社) 全国介護付きホーム協会会員

住友林業(株)
66.7%出資

スマリントケアライフ株式会社

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階)
TEL. (078) 261-6665 FAX. (078) 261-6662

[ホームページ] <http://www.s-carelife.co.jp>

